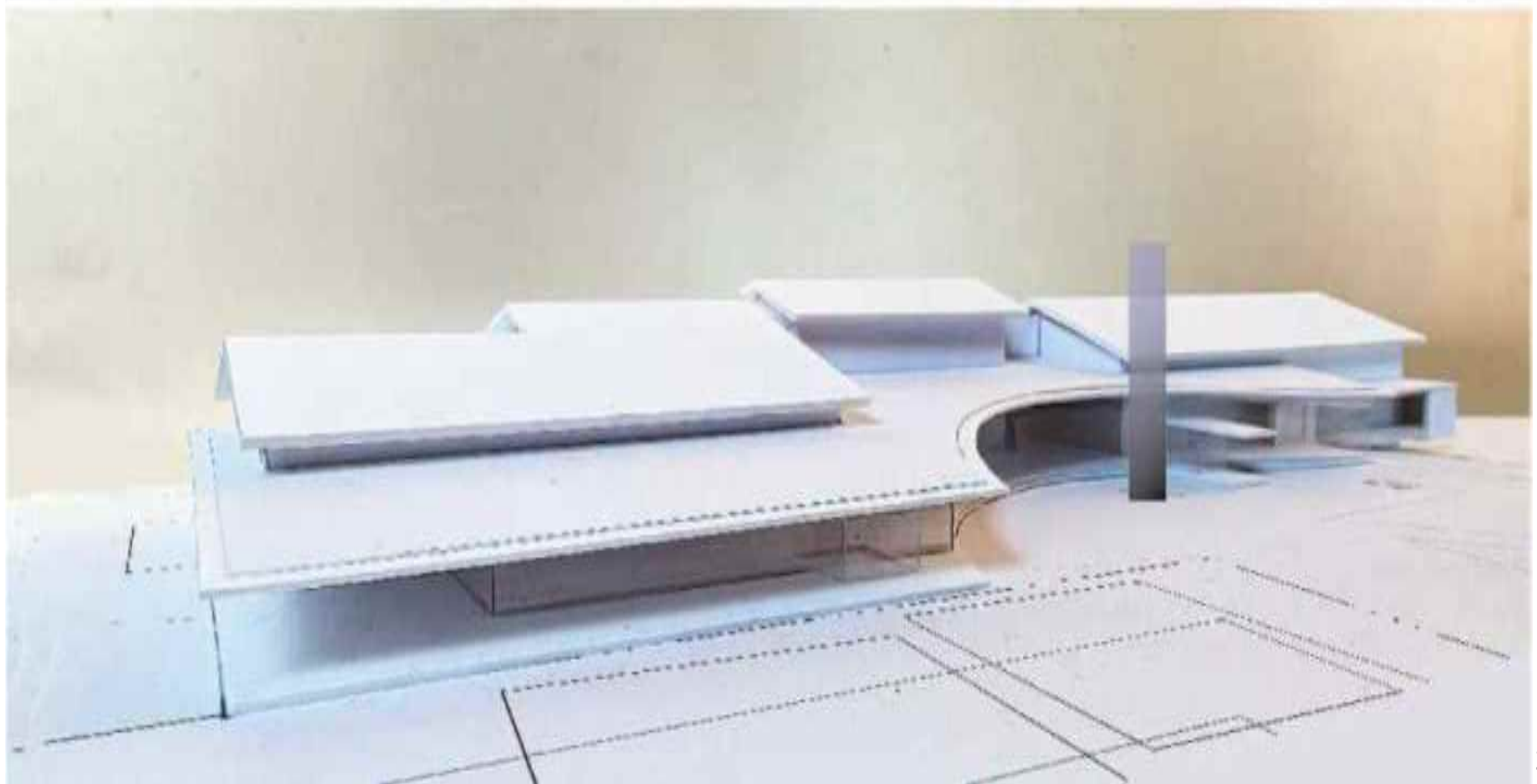


野田市鈴木貫太郎記念館
再建基本計画策定業務及び建築基本設計業務
基本設計図

株式会社 丹青社



総合

- I：計画説明
 - 1. 基本方針
 - 2. 計画概要
 - 1) 敷地概要
 - 2) 配置計画
 - 3) 平面計画
 - 4) 断面計画
 - 5) 意匠計画
- II：仕様概要
 - 1. 収蔵庫
 - 2. 展示室
- III：仕上概要
- IV：図面
 - 1. 面積表・求積図
 - 2. 敷地案内図
 - 3. 配置図
 - 4. 平面図
 - 5. 断面図
 - 6. 立面図

構造

- I：計画説明
 - 1. 基本方針
 - 2. 構造計画
 - 3. 耐震安全性の目標
- II：設計概要
 - 1. 構造形式
 - 2. 設計用外力
 - 3. 主な構造使用材料

電気設備

- I：計画説明
 - 1. 基本方針
 - 2. 電気設備項目
- II：設計概要
 - 1. 電力引込設備
 - 2. 受変電設備
 - 3. 幹線設備
 - 4. 動力設備
 - 5. 電灯・コンセント設備
 - 6. 構内情報通信網設備
 - 7. テレビ共聴設備
 - 8. 電話設備
 - 9. インターホン・トイレ呼出設備
 - 10. 映像・音響設備
 - 11. 機械警備設備
 - 12. 火災報知設備

給排水衛生設備・空調換気設備

- I：計画説明
 - 1. 基本方針
- II-1：給排水衛生設備設計概要
 - 1. 給水設備
 - 2. 給湯設備
 - 3. 排水通気設備
 - 4. 衛生器具設備
 - 5. 消火設備
- II-2：空調換気設備設計概要
 - 1. 熱源設備
 - 2. 空調設備
 - 3. 空調ダクト設備
 - 4. 空調配管設備
 - 5. 換気設備
 - 6. 自動制御設備

I：計画説明

1. 基本方針

「野田市鈴木貫太郎記念館再建基本構想（R6.3 野田市市政推進室 野田市鈴木貫太郎記念館建設準備担当）」に示されている、以下の「新しい記念館を目指す姿」に基づき、設計方針を次のように定める。

(1) 記念館の法的位置づけ

- ・収蔵、調査研究、展示公開、生涯学習、発信の機能を備えた計画とする
- ・登録博物館とする。

(2) 観光振興の拠点

- ・記念館を目的としての来訪に加え、「川の駅」が計画されている「関宿あおぞら広場」を始めとする周辺施設との連携によるにぎわいの創出に効果的なゾーニングとする。



(3) 整備方針

- ・「為萬世開太平」の塔碑を始め、敷地内関連史跡を保存・再整備し、見学しやすい計画とする。



- 【貫太郎翁ゆかりの史跡】
- ①「為萬世開太平」の塔碑
 - ②戦没者慰霊碑
 - ③鈴木貫太郎邸井戸
 - ④鈴木貫太郎邸跡地
 - ⑤鈴木貫太郎邸門扉
 - ⑥「鈴木貫太郎翁終焉之地」石碑

- 建設規模は、博物館の登録要件を満たし、観光振興の拠点として次の諸室を計画する。

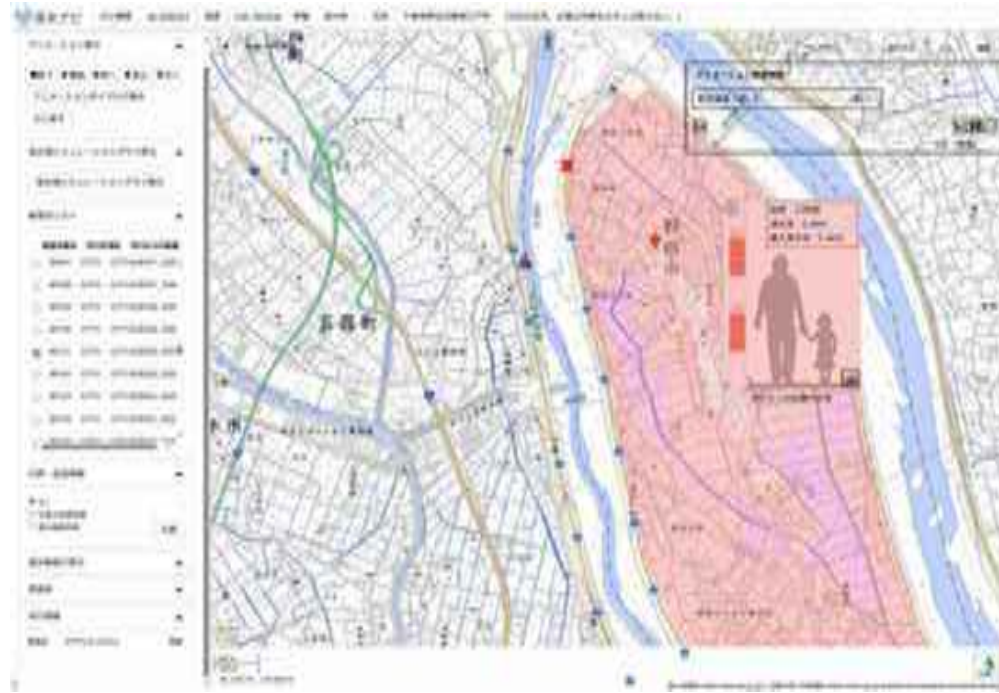
部門	室名	主な機能	面積	天井高
収集保存	収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料を安全に保管する。 資料の特性に合わせた温湿度環境を実現する。 二層棚設置を考慮する。 	168 m ²	5m
	収蔵庫前室	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫内の温湿度環境の安定のため扉の開閉時の外部空気の流入をできるだけ抑えるほか、防犯、文化財IPM管理上の緩衝スペースとしての役割も担う。 	20 m ²	3.5m
	一時保管庫	<ul style="list-style-type: none"> 借用資料や新規受入資料のならし・保管を行う。 	20 m ²	3.5m
	荷解室	<ul style="list-style-type: none"> 資料を搬出入する際、梱包・開梱作業を行う。 トラックからの荷卸しのため、奥行4m確保する。 梱包材の保管、簡易殺虫スペースを兼ねる。 トラックヤードと一体的な配置とする。 	38 m ²	4.5m
	搬入口・トラックヤード	<ul style="list-style-type: none"> 新規収蔵資料や他館からの借用資料を搬入したり、収蔵資料を館外へ搬出する際の防犯性を確保する。4tトラックを収容して安全に資料の積み下ろしができる規模を確保する。 	44 m ²	5m
	資料動線	<ul style="list-style-type: none"> 搬入口から収蔵庫、展示室まで、台車等で資料を移動するための動線。 想定される最大寸法の資料を安全に移動できる天井高と幅員(2.1m)を確保する 	—	3.5m
	調査研究	資料整理室 学芸員室 研究用書庫	<ul style="list-style-type: none"> 新規収蔵資料の点検、受入作業を行う。 収蔵資料の調査・研究をおこなう。 資料の撮影・スキャン等を行う。 書籍・関連資料を保管する。 備品倉庫の機能を含む。 	33 m ²
市民研究室		<ul style="list-style-type: none"> 市民が、学芸員と共に研究できる室として開放 	13 m ²	3.5m

部門	室名	主な機能	面積	天井高
展示公開	展示ロビー	<ul style="list-style-type: none"> 展示導入スペース 入口にオートドアを設置し、展示室環境を保護する。 	26 m ²	3.5m
	常設展示室	<ul style="list-style-type: none"> 実物資料、レプリカや映像等、多様な展示手法による展示を行う。 	199 m ²	4m
	企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料や他館からの借用資料も活用し、多様な企画展示を行う。 企画テーマに応じて、常設展示と一体的展示構成ができる平面とする。 	81 m ²	4m
	展示ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> エピソード展示を行う。 史跡エリアの案内を行う。 出口にオートドアを設置し、展示室環境を保護するとともに、出口方向のみの開閉で、展示順路を制御する。 	54 m ²	3m
	展示準備室	<ul style="list-style-type: none"> 展示のための準備作業を行う。 展示室で使用していない展示ケースや備品等の保管を行う。 	44 m ²	4m
発信交流	エントランスホール	<ul style="list-style-type: none"> エントランス空間として、来館者への案内やサービス機能(トイレ、授乳室、ロッカー等)を提供する。 ライブラリー・ミュージアムショップ機能も含む。 セミナー・オープン展示などを行えるスペースを設ける。 	223 m ²	2.8 ~4.2m
管理運営	事務室	<ul style="list-style-type: none"> 事務作業と受付、ミュージアムショップの管理を行う。 	13 m ²	2.7m
	館長室・応接室	<ul style="list-style-type: none"> 事務室、学芸員室と連携しやすい配置とする。 	12 m ²	2.7m
	休憩室	<ul style="list-style-type: none"> ロッカールーム、外部委託スタッフ休憩スペース、給湯室等を備える。 職員用トイレは設置せず、来館者用トイレを利用する。 	10 m ²	2.7m
	倉庫	<ul style="list-style-type: none"> 館の運営に関する在庫や備品等を保管する。 	7 m ²	2.7m
共用	機械室	<ul style="list-style-type: none"> 電気や空調等の設備機器を配置する。 	46 m ²	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> トイレ、廊下他 	47 m ²	
合計			1,098 m ²	

(4) 浸水対策

- 記念館の建設場所は、100年に1度の降雨に伴い、利根川または江戸川が氾濫した場合に、最大、建物1階部分が浸水することが想定されている。
しかしながら、にぎわい創出、館運用、近隣環境の観点から、建物は平屋とし、可能な範囲での浸水対策と、防災行動計画（タイムライン）により、人の安全と、資料の最大限の保護について計画する。

- 資料については、収蔵庫の開口が出入口1か所であることから、収蔵庫内が浸水しないように扉を含めた対浸水構造とし、避難準備（氾濫警戒情報）時点など必要な場合に、展示室内資料を移動できるように計画する。
- 人については、避難指示（氾濫危険情報）時点での避難が原則であるが、資料の保護対策等で、万一避難できなかった場合等に備え、屋上に避難場所を確保する。



(5) 財源の確保

- 都市構造再編集中支援事業補助金活用のため、同要項省エネ要件のZEB水準（40%削減）にて計画する。
- そのうえで、ZEB Ready（50%削減）を目指す。



その他の基本方針

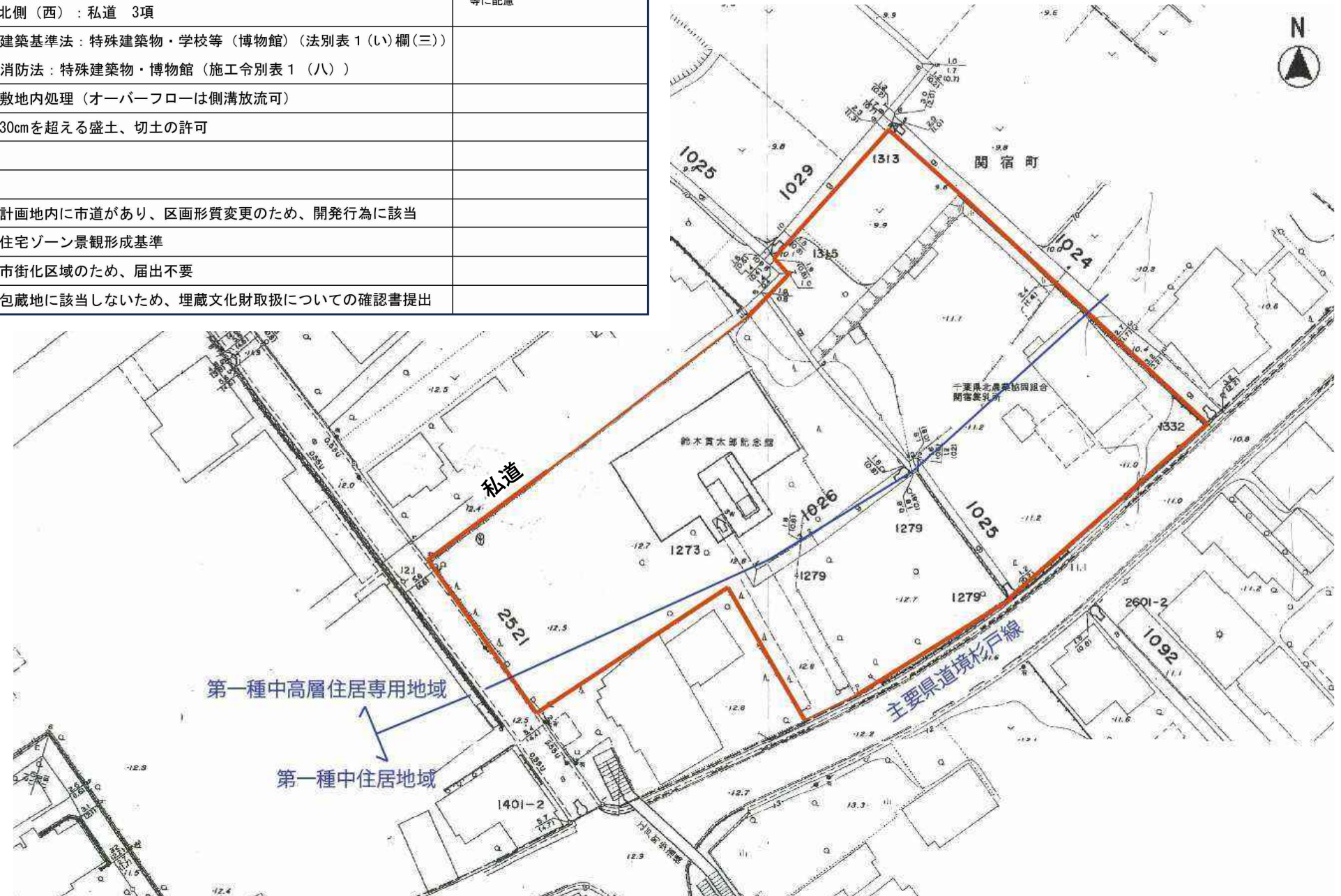
(6) 収蔵環境

- 収蔵庫内は恒温恒湿環境とするが、収蔵庫建物仕様と併せて、収蔵庫特有の条件に応じた収蔵庫に特化した空調計画により、ランニングコストを抑えた計画とする

2. 計画概要

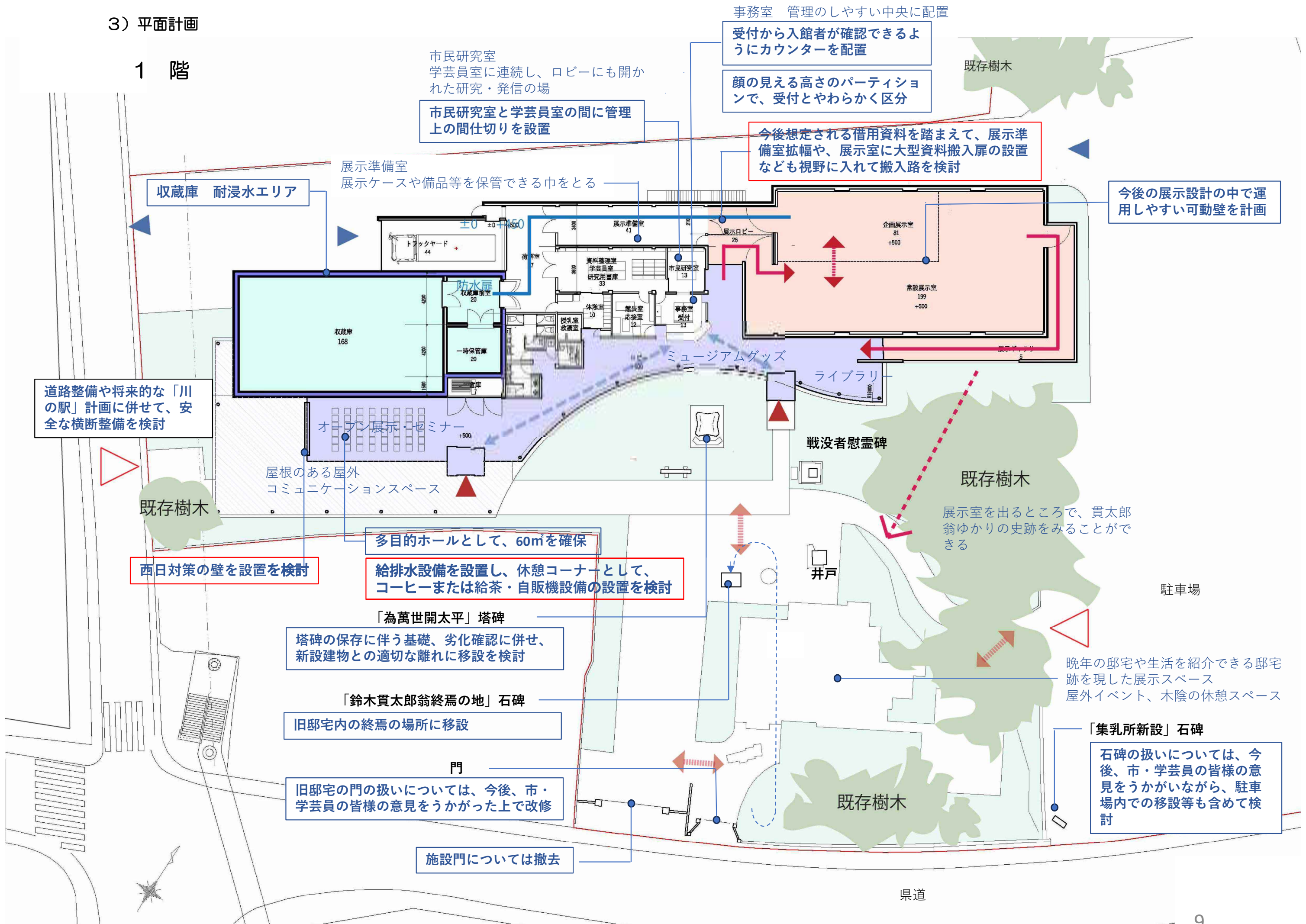
1) 敷地概要

建設予定地	地 番：千葉県野田市1273他				
	住居表示：千葉県野田市関宿町1273番地				
建築基準法 消防法				合計	
	敷地面積	**** m ²		**** m ²	
	用途地域	第一種中高層住居専用地域		第一種住居地域	
		容積率	建ぺい率	容積率	建ぺい率
		150%	60%	200%	60%
	防火地域	指定なし		指定なし	
	高度地区	第一種高度地区		第一種高度地区	
	日影規制	あり 3時間2時間(測定面4m)	あり 4時間2.5時間(測定面4m)		(規制対象は高さ10m以上の建築物)
	周辺道路	南側：主要県道境杉戸線 幅員12m 西側：市道 2521 幅員5.5m 東側：市道 1024 2項 セットバックあり 北側(東)：市道 1029 法定外道路 北側(西)：私道 3項			擁壁等設置に際しては、将来計画等に配慮
	建物用途	建築基準法：特殊建築物・学校等(博物館)(法別表1(イ)欄(三)) 消防法：特殊建築物・博物館(施工令別表1(八))			
雨水	敷地内処理(オーバーフローは側溝放流可)				
その他	宅地造成及び特定盛土等規制法	30cmを超える盛土、切土の許可			
	バリアフリー新法				
	建築物省エネ法				
	野田市宅地開発指導要綱(都市計画課 開発指導係)	計画地内に市道があり、区画形質変更のため、開発行為に該当			
	野田市景観条例(都市計画課 計画係)	住宅ゾーン景観形成基準			
	木材の伐採(みどりと水のまちづくり課)	市街化区域のため、届出不要			
	埋蔵文化財(生涯学習課)	包蔵地に該当しないため、埋蔵文化財取扱いについての確認書提出			



3) 平面計画

1 階



道路整備や将来的な「川の駅」計画に併せて、安全な横断整備を検討

収蔵庫 耐浸水エリア

展示準備室
展示ケースや備品等を保管できる巾をとる

市民研究室
学芸員室に連続し、ロビーにも開かれた研究・発信の場

市民研究室と学芸員室の間に管理上の間仕切りを設置

事務室 管理のしやすい中央に配置

受付から入館者が確認できるようにカウンターを配置

顔の見える高さのパーティションで、受付とやわらかく区分

今後想定される借用資料を踏まえて、展示準備室拡幅や、展示室に大型資料搬入扉の設置なども視野に入れて搬入路を検討

今後の展示設計の中で運用しやすい可動壁を計画

既存樹木

屋根のある屋外コミュニケーションスペース

既存樹木

西日対策の壁を設置を検討

多目的ホールとして、60mを確保

給排水設備を設置し、休憩コーナーとして、コーヒーまたは給茶・自販機設備の設置を検討

「為萬世開太平」塔碑
塔碑の保存に伴う基礎、劣化確認に併せ、新設建物との適切な離れに移設を検討

「鈴木貫太郎翁終焉の地」石碑
旧邸宅内の終焉の場所に移設

門
旧邸宅の門の扱いについては、今後、市・学芸員の皆様の意見をうかがった上で改修

施設門については撤去

戦没者慰霊碑

既存樹木

展示室を出るところで、貫太郎翁ゆかりの史跡をみることができる

駐車場

晩年の邸宅や生活を紹介できる邸宅跡を現した展示スペース
屋外イベント、木陰の休憩スペース

「集乳所新設」石碑
石碑の扱いについては、今後、市・学芸員の皆様の意見をうかがいながら、駐車場内での移設等も含めて検討

既存樹木

県道

ロビー：自由に入出りできるオープンスペース
セミナー・オープン展示など

「為萬世開太平」塔碑



コミュニケーションゾーン

史跡ゾーン

三つのゾーンを連続するロビーを含むオープンスペース

史跡ゾーン

「鈴木貫太郎翁終焉之地」石碑

戦没者慰霊碑

井戸



展示室より

展示室を出るところで、史跡ゾーンが見える

2 階

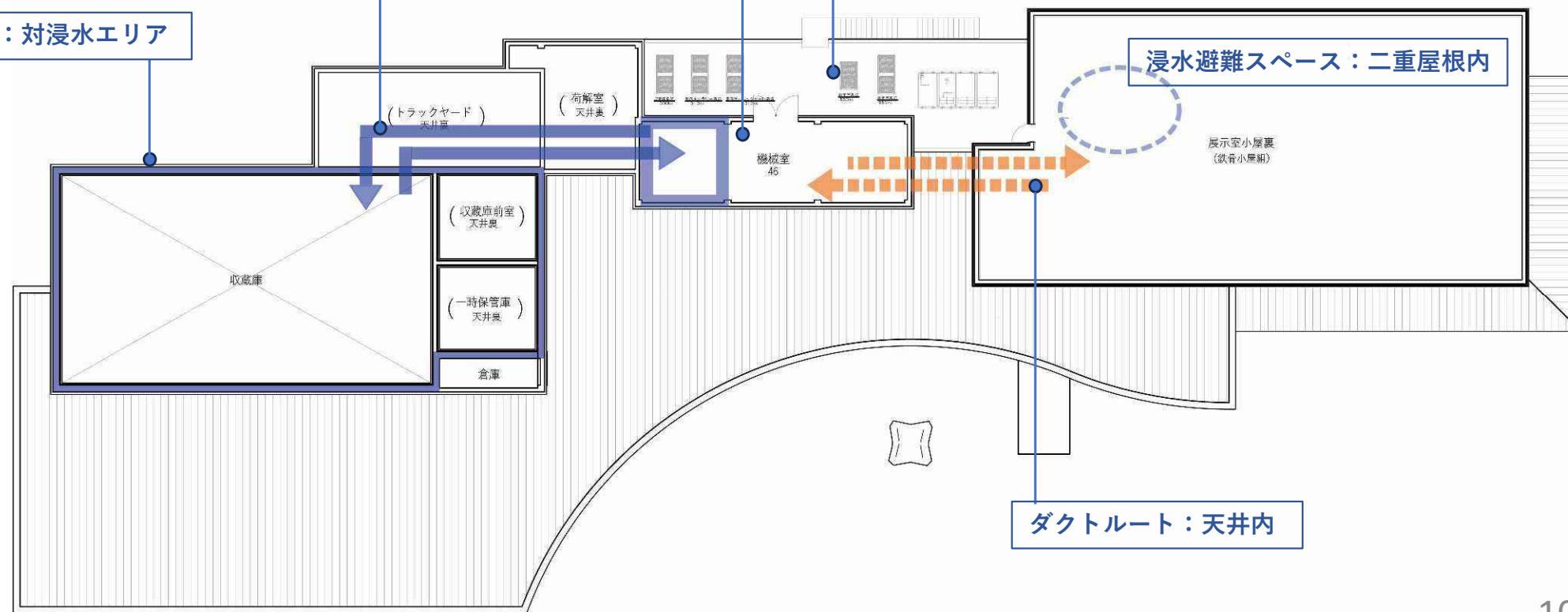
浸水想定レベルより上の2階に設置

ダクトルート：天井内・
浸水想定レベルより上

屋外機置場：室外機を南側から見えないように配置
防音壁で北側隣家へ配慮

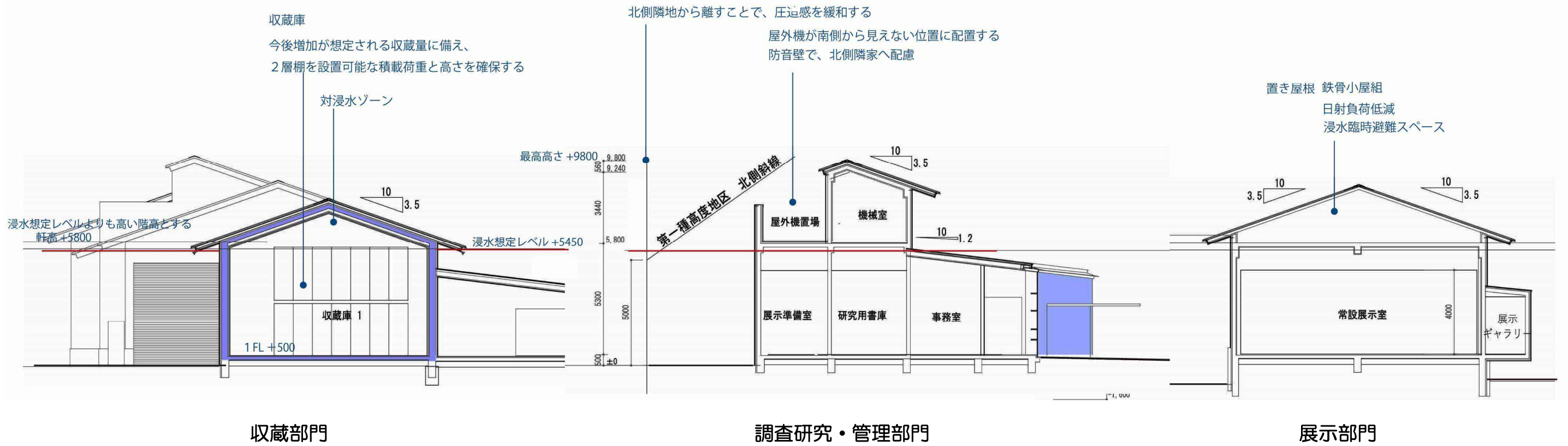
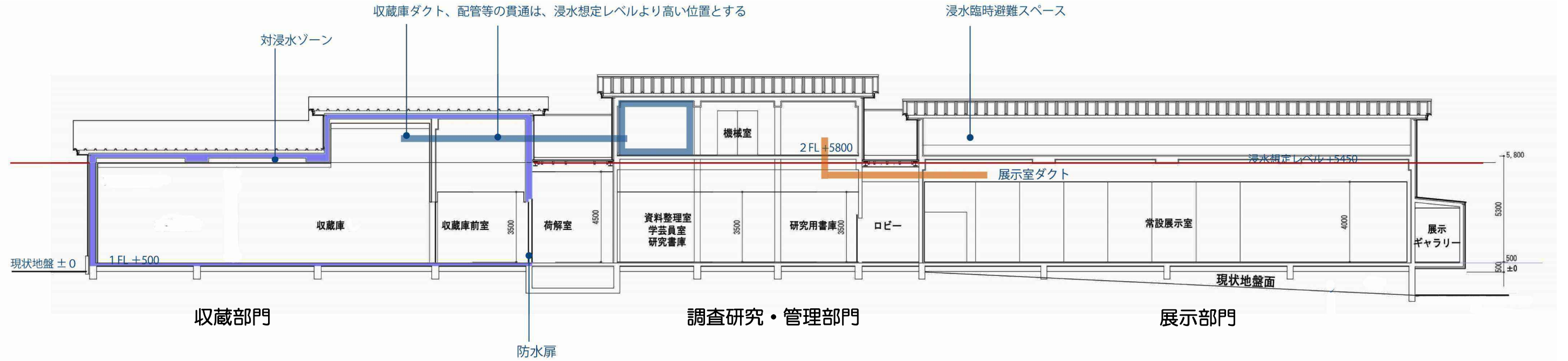
収蔵庫：対浸水エリア

浸水避難スペース：二重屋根内



ダクトルート：天井内

4) 断面計画



5) 意匠計画

- 記念館は、野田市景観計画 関宿北部地区内の住宅ゾーンに位置するため、周囲に圧迫感を与えないよう平屋とし、屋根のある落ち着いた外観とする
- 住宅地の景観スケールに合わせて分節した3棟をつないで、入りやすく開かれたギャラリーが、塔を囲んで広がる
- 外装には、金属製パネル（発色加工）などの素材の耐久性が高い材料を使用する

二重屋根・二重壁により、
日射負荷を押えて省エネルギーを図る

二重屋根、二重壁は 耐久性の高い金属性とする

広場ゾーン

史跡史跡ゾーンとつながる展示エリア

「為萬世開太平」塔碑

屋根のある屋外コミュニケーションスペース

コミュニケーションゾーン

史跡ゾーン

いづれのゾーンにも開かれた、開放感のあるロビー
自由に入出りできるオープンスペース
ガラスを通して見えるロビーは、親しみやすく
入りやすい、ぬくもりのある内装とする

自然エネルギー利用

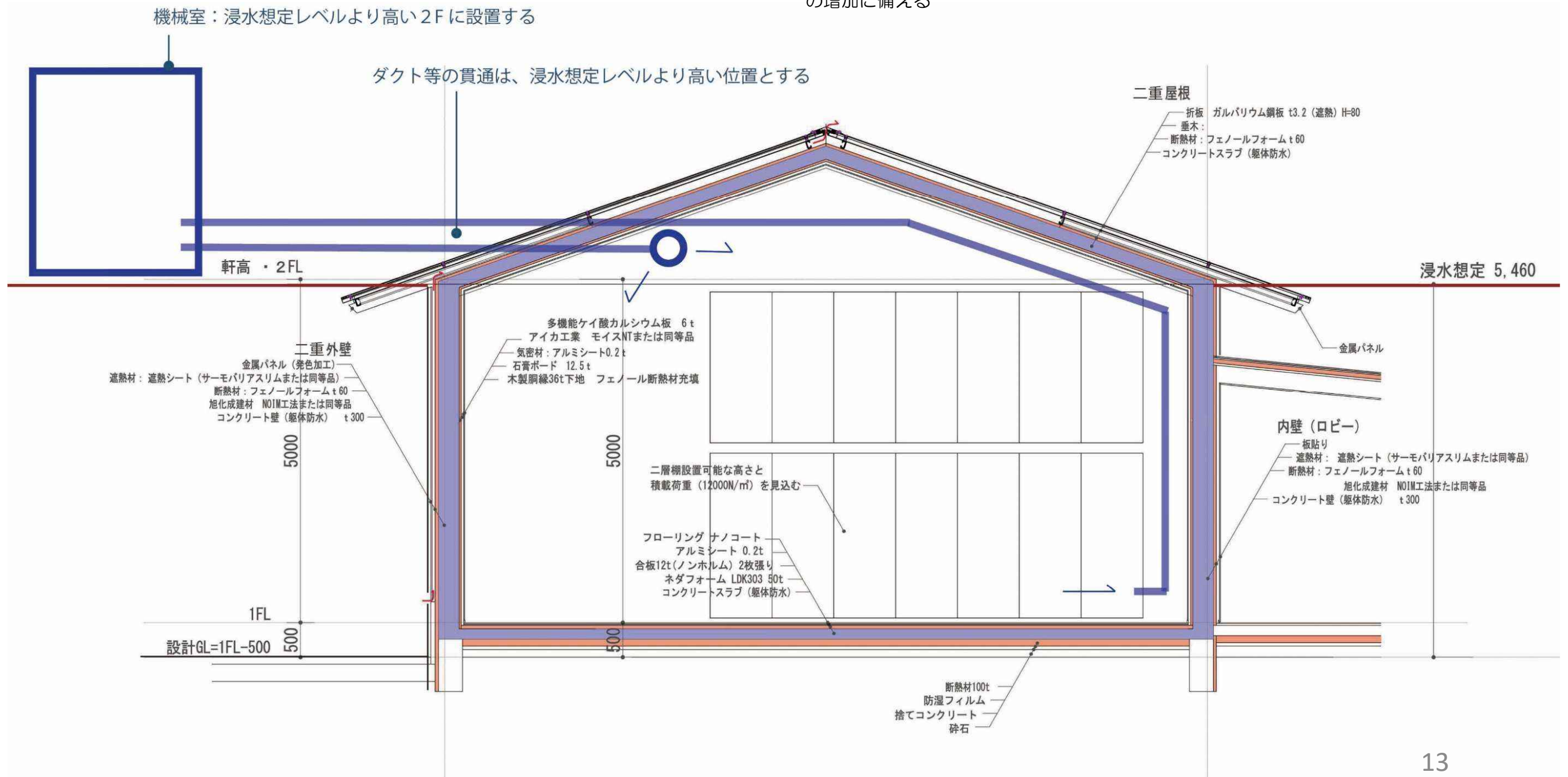
夏の日射を遮り、冬の太陽光を取り込むように、小庇、Lo-E ガラス
の組合せ、蓄熱壁などにより、日射エネルギー利用を検討する

Ⅱ：仕様概要

1. 収蔵庫

- 気密、耐火対策（自主的防火区画）
収蔵庫6面をコンクリート構造とし、1か所の出入口、空調ダクト等の必要設備以外の開口は設けない。
各収蔵庫を100㎡以下とすることで、排煙窓は設置しない。
- 温湿度管理
収蔵庫内温湿度を安定させるため、二重屋根、二重壁による日射負加低減とともに、遮熱シート、外断熱で熱負荷低減（室内区画壁共）および、内壁気密シート、調湿壁で、防湿、調湿、コンクリート等からの揮発性ガス遮断を行なうなど、建物構造自体の気密、断熱性能を高め、たうえで、収蔵庫に特化した空調方式により、庫内環境を維持しつつ省エネを計る。

- 資料汚損の可能性のある機械室等は、収蔵庫上部には設置しない
- 浸水対策
階高を浸水想定高さ以上の5mとし、6面を躯体防水による防水をおこなう（平常時は防水の必要がなく、劣化等による漏水確認ができず、外防水、内防水等の改修も困難ため、密実なコンクリートの打設をおこなう）
また、階高を浸水想定高さ以上とすることで、万一浸水による漏水が起きた際にも、収蔵資料に直接水がかかることを防止する。
出入口は、金庫扉に加え、5mの浸水に対応する防水扉を設置する。
空調ダクト等の庫内への貫通部は、浸水想定高さよりも高い位置に設ける。
- 階高を5mとすることで、2層棚にできる積載荷重等を見込み、収蔵量の増加に備える



2. 展示室

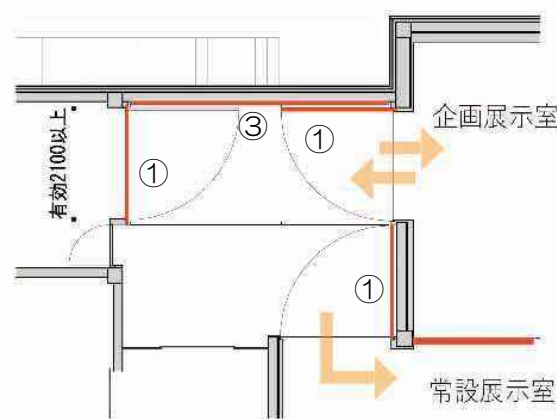
- 気密、耐火、防犯対策として、展示室6面をコンクリート構造とし、出入口には、閉館時等、随時閉じることができる、防火、断熱、気密扉を設置し、区画を形成する。（設備共）
- 室内環境管理は、恒温湿空調機により温湿度を維持するが、二重屋根、二重壁による日射負荷低減とともに、遮熱シート、外断熱で熱負荷低減（室内区画壁共）し、省エネを図るとともに、内壁気密シートで、コンクリート、合板等からの揮発性ガスを遮断する。
- 常設展示室、企画展示室は、展示パネルの移動により、企画内容に応じた一体的展示構成が可能な計画とし、同一系統の空調とする。
- 壁面展示に備え、合板12mmを捨て貼りし、ピクチャーレールを設置する。
- 常設展示室、企画展示室は、展示パネルの移動により、企画内容に応じた一体的展示構成が可能な計画とする。

そのため、展示導入部の展示ロビー部扉には次の機能を持たせる。

- ① スチール片開き扉・自主的防火扉
2100×3500
セミエアタイト
下部オートマチックタイト
ロックウール充填
本締錠
展示演出の妨げにならないように
展示ロビー側は、壁面、展示パネル
のような意匠とし、取手、丁番等の
金物はめだたないようにする
- ② スチール片開き扉
2100×3500
セミエアタイト
下部オートマチックタイト
ロックウール充填
本締錠
展示演出の妨げにならないように
展示ロビー側は、壁面、展示パネル
のような意匠とし、取手、丁番等の
金物はめだたないようにする
- ③ 可動間仕切パネル
(3100+2100)×3500
企画展示準備で、常設展のみの
開館時に閉じる

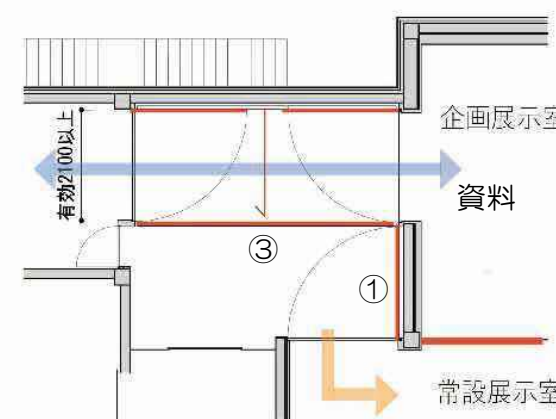


開館時（常設展示と関連する企画展示テーマ）



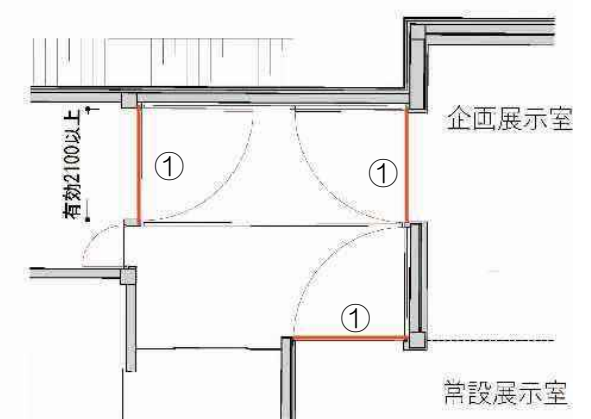
開館時（常設展示と独立する企画展示テーマ）

展示パネルで常設、企画展示室を分割



開館時（企画展示展示替え）

展示パネルで常設、企画展示室を分割



閉館時

展示ギャラリー部防火扉をを閉じ、展示室の自主的防火区画を形成

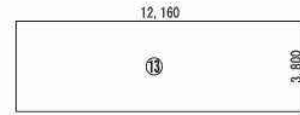
Ⅲ：仕上概要

- ・仕上には、メンテナンスが容易で、耐久性の高いものを使用する。
- ・環境に配慮し、可能な限り、天然素材、リサイクル等の環境循環に配慮した材料、製品の使用を検討する。

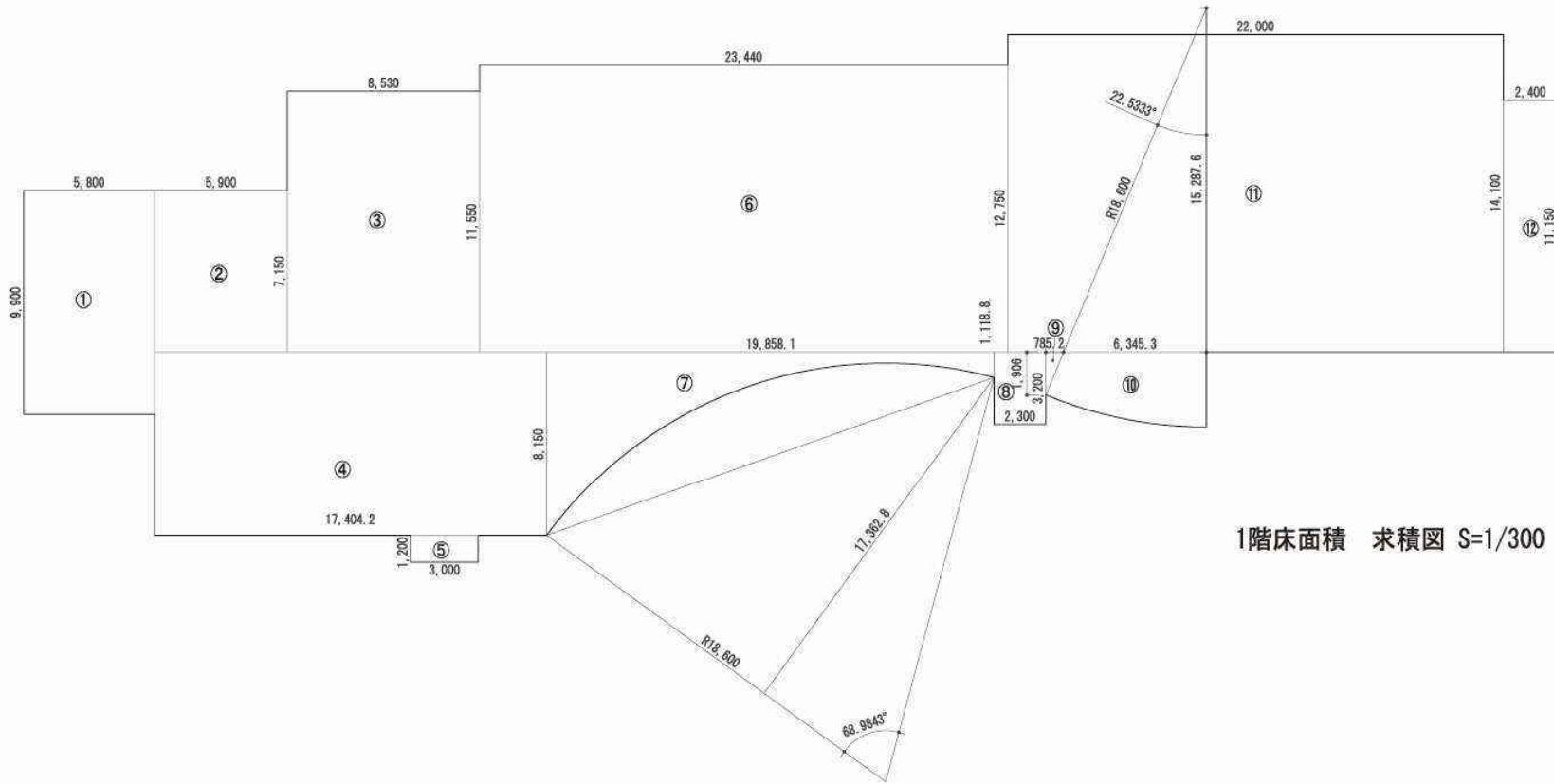
外部仕上げ				断熱性能				仕上認定番号						
外壁 コンクリート外壁 躯体防水 JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 60t 外断熱 LGS下地（旭化成建材No11工法または同等品） 遮熱シート（サーモバリアスリムまたは同等品） +アルミスバンドレール 電解発色仕上	屋根A コンクリートスラブ 躯体防水 JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 60t 母屋+ガルバリウム鋼板折板 1.0t（遮熱）80h	室外機置場 コンクリートスラブ シート防水 押出法ポリスチレンフォーム JIS A 9521 XPS3bA 60t 屋上防水保護用乾式ブロック 45t 置き敷き	軒天井 LGS下地 金属パネル	壁 ① コンクリート外壁 JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 60t 0.33W/m ² ・K 屋根 ③ コンクリートスラブ屋根 JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 60t 0.33W/m ² ・K ④ 屋外機置場 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 JIS A 9521 XPS3bA 60t 0.46W/m ² ・K ⑤ 鉄骨勾配屋根 JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 60t 0.33W/m ² ・K 床 ⑥ 床スラブ下 吸水性の低い砂利、砕石Φ30～40を100mm毎に転圧しながら敷きならし。300t（地熱利用）目潰し砂利で上端表面を整え、防湿シートを敷き込む。捨てコンクリートは防湿シート上に打設する事。 ⑦ ビット付き2重スラブ床：ビット内天井面 木継セメント板打込み 保存 ⑧ 収蔵庫・収蔵庫前室・展示室躯体面（壁内間仕切部分を含む）（壁、天井スラブ下） JIS A 9521フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t 0.57W/m ² ・K + アルミシート0.2t 木継セメント板 30t（ゼオライト入り）型枠兼用打込 2.63W/m ² ・K 収蔵庫・収蔵庫前室（床）ネダフォーム LDK303 50t 0.66W/m ² ・K + アルミシート0.2t	厚さ 9.5 12.5 12.5 6 30 9 8 12 18 12.5 18	不燃 準不燃 NM-8619 NM-9639 NM-8424 NM-9038 NM-8599 NM-8578 NM-8576 NM-8585 NM-0530 NM-3991	準不燃 難燃 OM-9828 OM-9816 告示1401号							
内部仕上げ（付属施設）														
階	室名	床			巾木		壁			天井			外周断熱	備考
		下地	仕上	仕上厚合計	高さ	下地	仕上	仕上厚合計	下地	仕上	天井高（床レベル）			
1階	ロビー	モルタル	大判タイル	35	スプルス 15t OP	40	LGS下地 PB12.5 × 2枚	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品） 一部 板（ブナ）張り OF		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	勾配天井 (IF.L=0)	② ⑤ ⑥	
	展示ロビー	フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 60t + モルタル	フローリングB	35	スプルス 15t OP	40	LGS下地 合板12t（ノンホルマリン）+ PB12.5	ガラスクロス 塗装仕上げ		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	4000 (IF.L=0)	④ ⑥	
	常設展示室 企画展示室	モルタル	フローリングB	35	アルミ	40	木継セメント板 30t 打込 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t LGS下地 合板12t（ノンホルマリン） アルミシート 0.2t + PB12.5	ガラスクロス 塗装仕上げ		コンクリート素地	システム天井	4000 (IF.L=0)	① ③ ⑤ ⑥ ⑧	
	展示ギャラリー	モルタル	フローリングB	35	スプルス 15t OP	40	LGS下地 合板12t（ノンホルマリン）+ PB12.5	ガラスクロス 塗装仕上げ		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	2700 (IF.L=0)	① ③ ⑥	
	事務室	モルタル	タイルカーペット	35	ビニル巾木	40	コンクリート素地 一部鉄骨下地 PB 12.5t × 2	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	勾配天井 (IF.L=0)	② ⑤ ⑥	
	館長室・応接室	モルタル	タイルカーペット	35	スプルス 15t OP	40	LGS一部鉄骨補強 PB 12.5t × 2	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	勾配天井 (IF.L=0)	② ⑤ ⑥	
	休憩室	モルタル	タイルカーペット	35	スプルス 15t OP	40	コンクリート素地 LGS PB 12.5t × 2	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	勾配天井 (IF.L=0)	② ⑤ ⑥	
	授乳室・教護室	モルタル	タイルカーペット	35	スプルス 15t OP	40	LGS PB 12.5t × 2	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	勾配天井 (IF.L=0)	② ⑤ ⑥	
	倉庫	モルタル	重歩行用単層ビニル床シート（ノーワックスタイプ）	35	コンクリート素地		コンクリート素地			LGS下地	化粧石膏ボード9.5 t	2700 (IF.L=0)	⑤ ⑥	
	トイレ	モルタル	重歩行用単層ビニル床シート（ノーワックスタイプ）	35	壁仕上に同じ		LGS下地 遮音シート + PB（耐水）12.5t	メラミン化粧板		LGS下地 PB9.5 t	岩綿吸音板9 t	2400 (IF.L=0)	② ⑤ ⑦	ビット内（天井面 木継セメント板打込）
	資料整理室 学芸員室 研究用書庫	モルタル	重歩行用単層ビニル床シート（ノーワックスタイプ）	35	スプルス 15t OP	40	コンクリート素地	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地	化粧石膏吸音ボード9.5 t （吉野石膏ｽｸﾗｯﾌﾟ7-Dﾌﾞﾗｯｸまたは同等品）	3500 (IF.L=0)	⑥	
	市民研究室	モルタル	重歩行用単層ビニル床シート（ノーワックスタイプ）	35	スプルス 15t OP	40	コンクリート素地	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地	化粧石膏吸音ボード9.5 t （吉野石膏ｽｸﾗｯﾌﾟ7-Dﾌﾞﾗｯｸまたは同等品）	3500 (IF.L=0)	② ⑤ ⑥	
	展示準備室	モルタル	重歩行用単層ビニル床シート（ノーワックスタイプ）	35	スプルス 15t OP	40	コンクリート素地	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地	化粧石膏ボード9.5 t	3500 (IF.L=0)	① ④ ⑥	
	トラックヤード	モルタル	厚膜型エポキシ樹脂系塗布床材 防滑仕上げ	35	塗り床用軟質ポリエス テル整形巾木	100	コンクリート素地	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地	化粧石膏ボード9.5 t	5000 (IF.L=900)	① ③ ⑥	
	荷解室	モルタル	重歩行用単層ビニル床シート（ノーワックスタイプ）	35	スプルス 15t OP	40	コンクリート素地	消石灰系仕上り塗装（アレスシクイまたは同等品）		LGS下地	化粧石膏ボード9.5 t	4500 (IF.L=0)	① ③ ⑥ ⑦	ビット内（天井面 木継セメント板打込）
	一時保管庫	ネダフォーム LDK303 50t アルミシート 0.2t	フローリングA	85	杉	40	木継セメント板 30t 打込 木製脚縁36t下地 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t アルミシート 0.2t 多機能ケイ酸カルシウム板 6t （アイカ工業 モイスNTまたは同等品）	透湿性クロス貼り	100	木継セメント板 30t 打込 木製脚縁36t下地 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t アルミシート 0.2t 多機能ケイ酸カルシウム板 6t （アイカ工業 モイスNTまたは同等品）	透湿性クロス貼り	3500 (IF.L=0)	① ③ ⑥ ⑧	
	収蔵庫前室	ネダフォーム LDK303 50t アルミシート 0.2t	フローリングA	85	杉	40	木継セメント板 30t 打込 木製脚縁36t下地 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t アルミシート 0.2t 多機能ケイ酸カルシウム板 6t （アイカ工業 モイスNTまたは同等品）	透湿性クロス貼り	100	木継セメント板 30t 打込 木製脚縁36t下地 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t アルミシート 0.2t 多機能ケイ酸カルシウム板 6t （アイカ工業 モイスNTまたは同等品）	透湿性クロス貼り	3500 (IF.L=0)	① ③ ⑥ ⑧	
収蔵庫 1 収蔵庫 2	ネダフォーム LDK303 50t アルミシート 0.2t	フローリングA	85	杉	40	木継セメント板 30t 打込 木製脚縁36t下地 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t アルミシート 0.2t 多機能ケイ酸カルシウム板 6t （アイカ工業 モイスNTまたは同等品）	透湿性クロス貼り	100	木継セメント板 30t 打込 木製脚縁36t下地 フェノールフォーム断熱材1種2号CⅡ 35t アルミシート 0.2t 多機能ケイ酸カルシウム板 6t （アイカ工業 モイスNTまたは同等品）	透湿性クロス貼り	勾配天井	① ③ ⑥ ⑧		
2階	空調機械室	コンクリート 金網押さえ	水系ポーレンコート （薄膜水性1液型アクリル樹脂系塗床材） 大同塗料または同等品	10	コンクリート打ち放し	100	コンクリート打ち放し		コンクリート打ち放し	グラスウール吸音ボード 50t 32kg品 （ガラスクロス顔縁張り品）	勾配天井	① ③		
略号	EP 合成樹脂エマルジョンペイント （二回塗りとする）	QL クリアラッカー （三回塗り、網幅物は五回塗りとする）	PB 石膏ボード 化粧PB 化粧石膏ボード	EPG 水性反応硬化形アクリル樹脂系塗料 （二回塗りとする 下塗り、 木部 水性木部下塗り材一回塗り 鉄部 水性反応硬化形アルキド樹脂系塗料一回塗り）	OSUC オイルステインウレタンクリア UC ウレタンクリア UP ウレタン塗装 天然オイル拭き取り3回	透湿性クロス FE-1761 サンゲツ または同等品 ガラスクロス 塗装仕上げ：SW12725+水性リデルック艶消し（指定工法による準不燃仕上げ）シンコールまたは同等品 ※1 使用材料は接着剤を含めてすべて☆☆☆☆を使用する。 ※2 排煙設備の部屋は告示1436号4-2の番号を示す								

IV：図面

1. 面積表・求積図		1/300	-----	意匠-01
2. 敷地案内図		1/2500	-----	意匠-02
3. 配置図		1/400	-----	意匠-03
4. 平面図	1階平面図	1/200	-----	意匠-04
	2階平面図	1/200	-----	意匠-05
	屋根伏図	1/200	-----	意匠-06
5. 断面図	断面図 1	1/200	-----	意匠-07
	断面図 2	1/200	-----	意匠-08
6. 立面図		1/200	-----	意匠-09

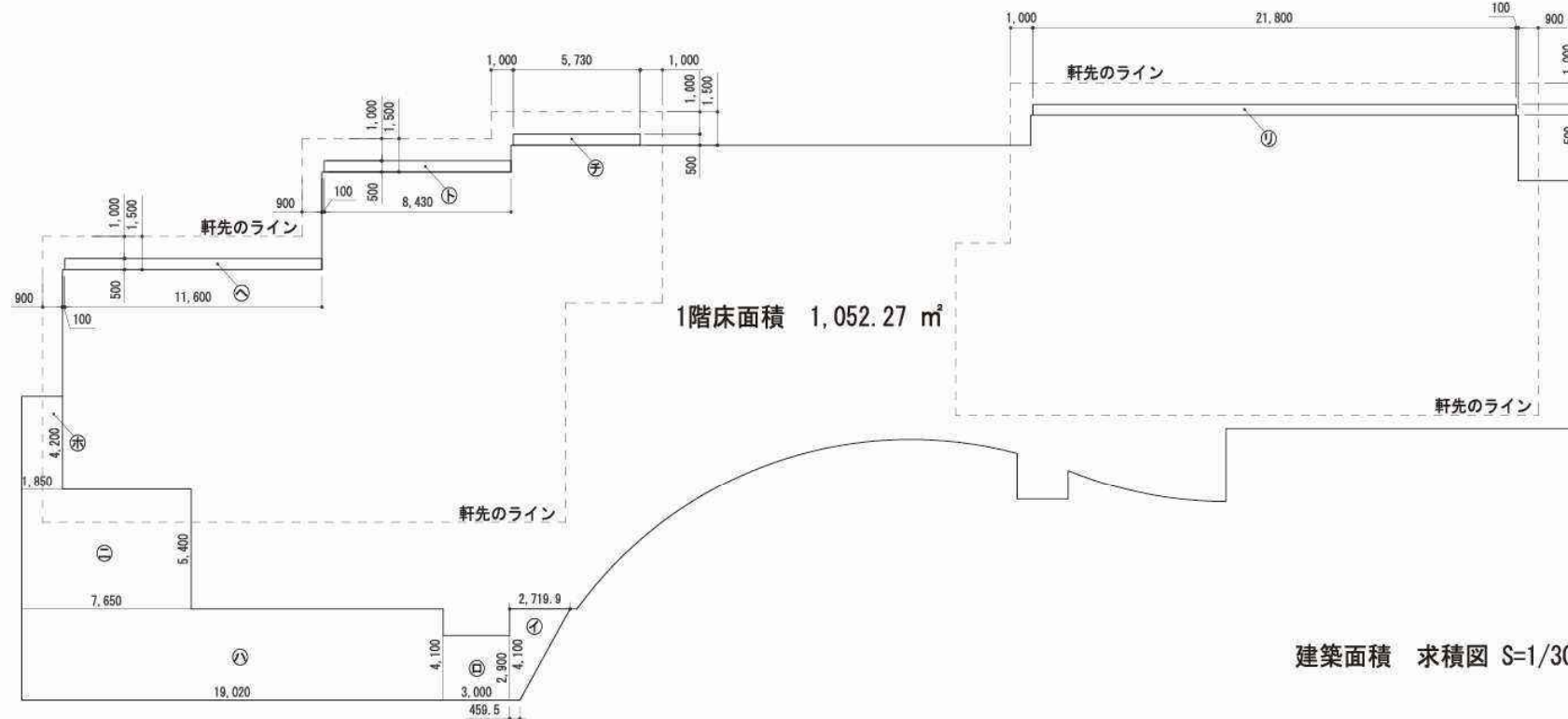


2階床面積 求積図 S=1/300



1階床面積 求積図 S=1/300

No.	計算式	
①	5.800 × 9.900	= 57.420 m ²
②	5.900 × 7.150	= 42.185 m ²
③	8.530 × 11.550	= 98.522 m ²
④	17.404 × 8.150	= 141.844 m ²
⑤	3.000 × 1.200	= 3.600 m ²
⑥	23.440 × 12.750	= 298.860 m ²
⑦	$(1.1188+8.150) \times 19.8581 / 2 - (18.6 \times 18.6 \times \pi \times 68.9843 / 360 - 18.6 \times 17.3628 / 2)$	= 45.242 m ²
⑧	2.300 × 3.200	= 7.360 m ²
⑨	0.785 × 1.906 / 2	= 0.748 m ²
⑩	$18.6 \times 18.6 \times \pi \times 22.5333 / 360 - 6.3453 \times 15.2876 / 2$	= 19.527 m ²
⑪	22.000 × 14.100	= 310.200 m ²
⑫	2.400 × 11.150	= 26.760 m ²
1階床面積		1,052.268 m²
⑮	12.160 × 3.800	= 46.208 m ²
2階床面積		46.208 m²
延べ床面積		1,098.476 m²

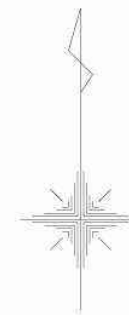


建築面積 求積図 S=1/300

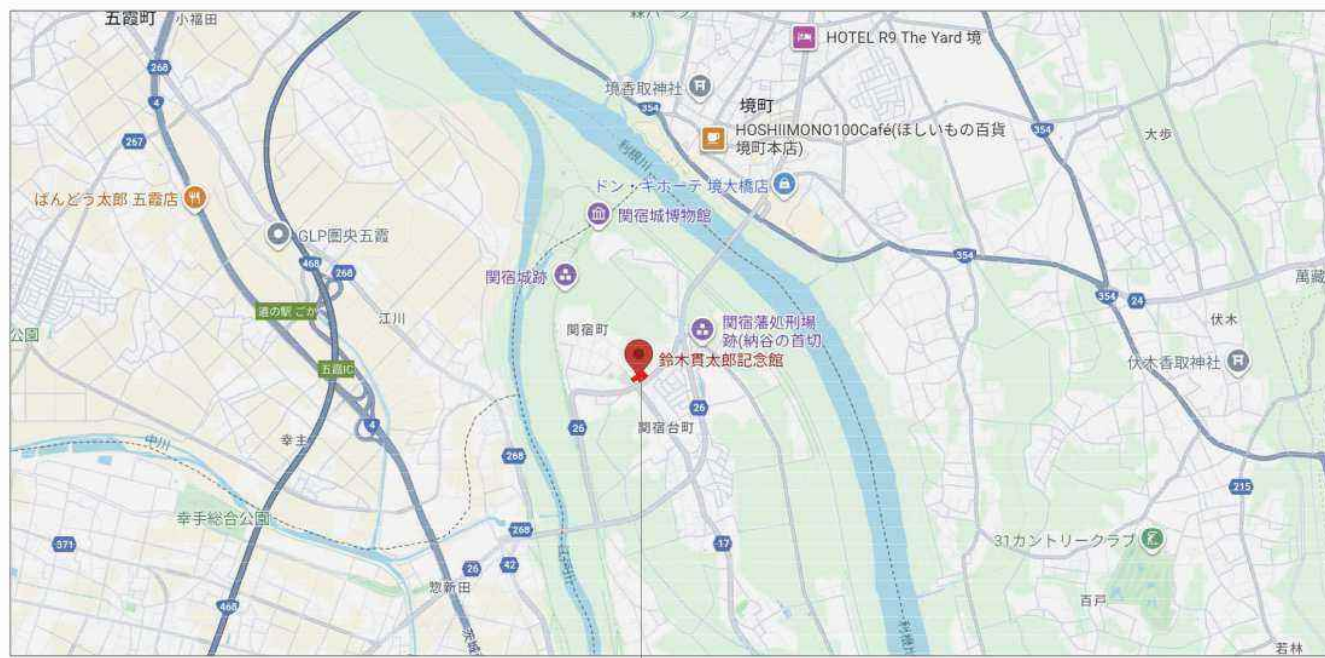
No.	計算式	
1階床面積		1,052.268 m²
㉑	$(2.7199+0.4595) \times 4.100 / 2$	= 6.518 m ²
㉒	3.000 × 2.900	= 8.700 m ²
㉓	19.020 × 4.100	= 77.982 m ²
㉔	7.650 × 5.400	= 41.310 m ²
㉕	1.850 × 4.200	= 7.770 m ²
㉖	11.600 × 0.500	= 5.800 m ²
㉗	8.430 × 0.500	= 4.215 m ²
㉘	5.730 × 0.500	= 2.865 m ²
㉙	21.800 × 0.500	= 10.900 m ²
建築面積		1,218.328 m²

【計画概要】

工事名称	野田市鈴木寛太郎記念館再建 基本設計				
工事場所	地番：千葉県野田市1273番地 他 住居表示：千葉県野田市関宿町1273番地				
敷地条件	敷地面積	**** m ²	**** m ²	合計 5,237.30 m ² (暫定値)	
	用途地域	第一種中高層住居専用地域		第一種住居地域	
		容積率	建ぺい率	容積率	建ぺい率
		150%	60%	200%	60%
	防火地域	指定なし		指定なし	
	高度地区	第一種高度地区		第一種高度地区	
日影規制	あり 3時間2時間(測定面4m)	あり 4時間2.5時間(測定面4m)	(規制対象は高さ10m以上の建築物)		
周辺道路	南側：主要県道境戸線 幅員12m 西側：市道2521号線 幅員5.6m 東側：市道71024号線 42条2項道路 セットバックあり 北側(東)：市道71029号線 法定外道路 北側(西)：私道 42条3項道路				
建物諸元	棟数・階数	1棟・地上2階			
	工事種別・工法	新築・鉄骨造+鉄筋コンクリート造			
	用途	特殊建築物・博物館(法別表第1(イ)欄(三)項)		48条但し書きの許可不要	
	耐火建築物	準耐火建築物			
	建築面積	1,212.37m ²			
	延床面積	1,098.48m ²			
	建ぺい率	23.15%			
	容積率	20.97%			
	最高高さ	9.800m 設計GLからの高さ			
	最高の軒高	9.240m 設計GLからの高さ			
雨水処理	敷地内処理(オーバーフローは側溝放流可)				

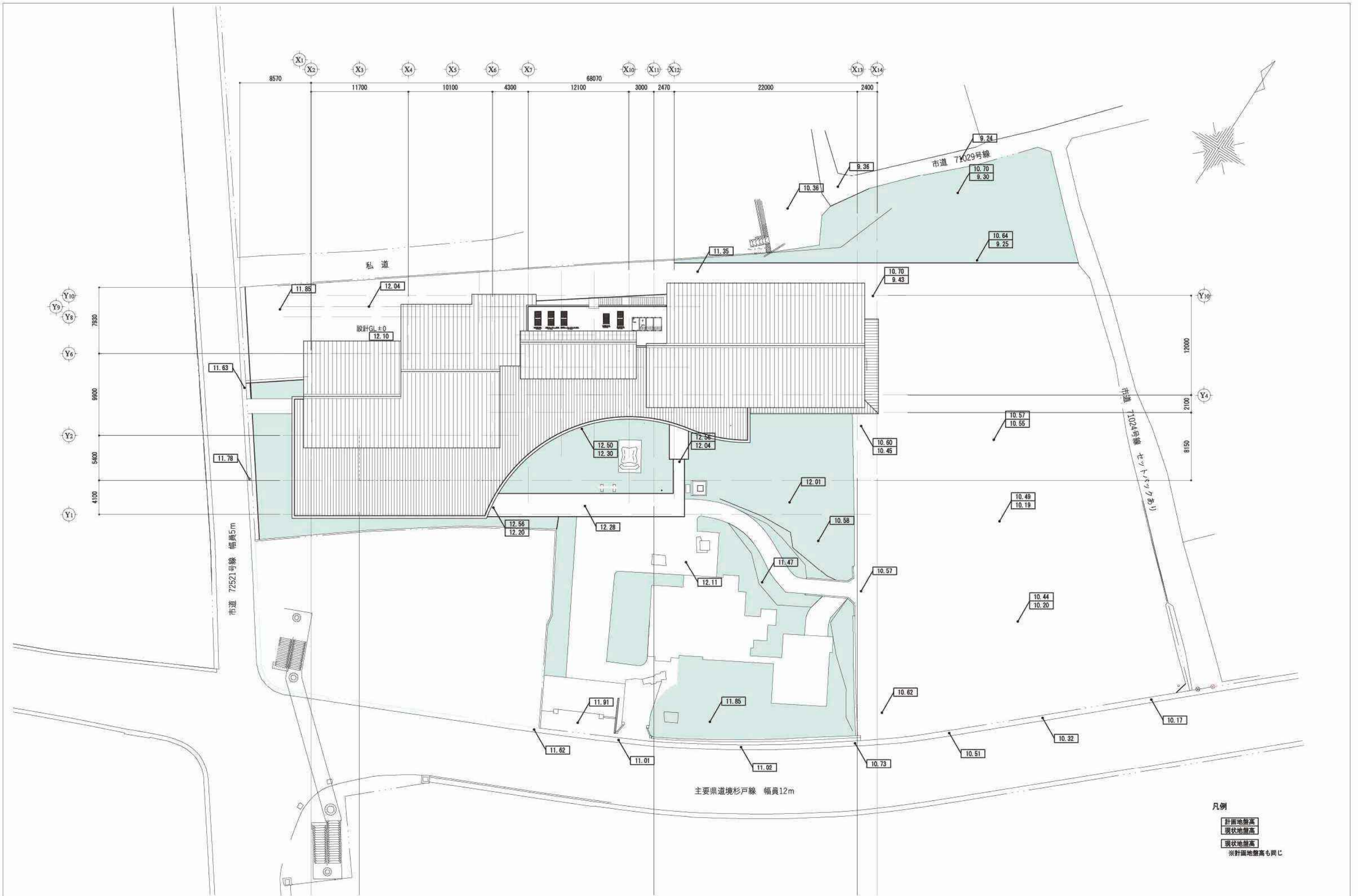


付近見取図 S=1:2,500



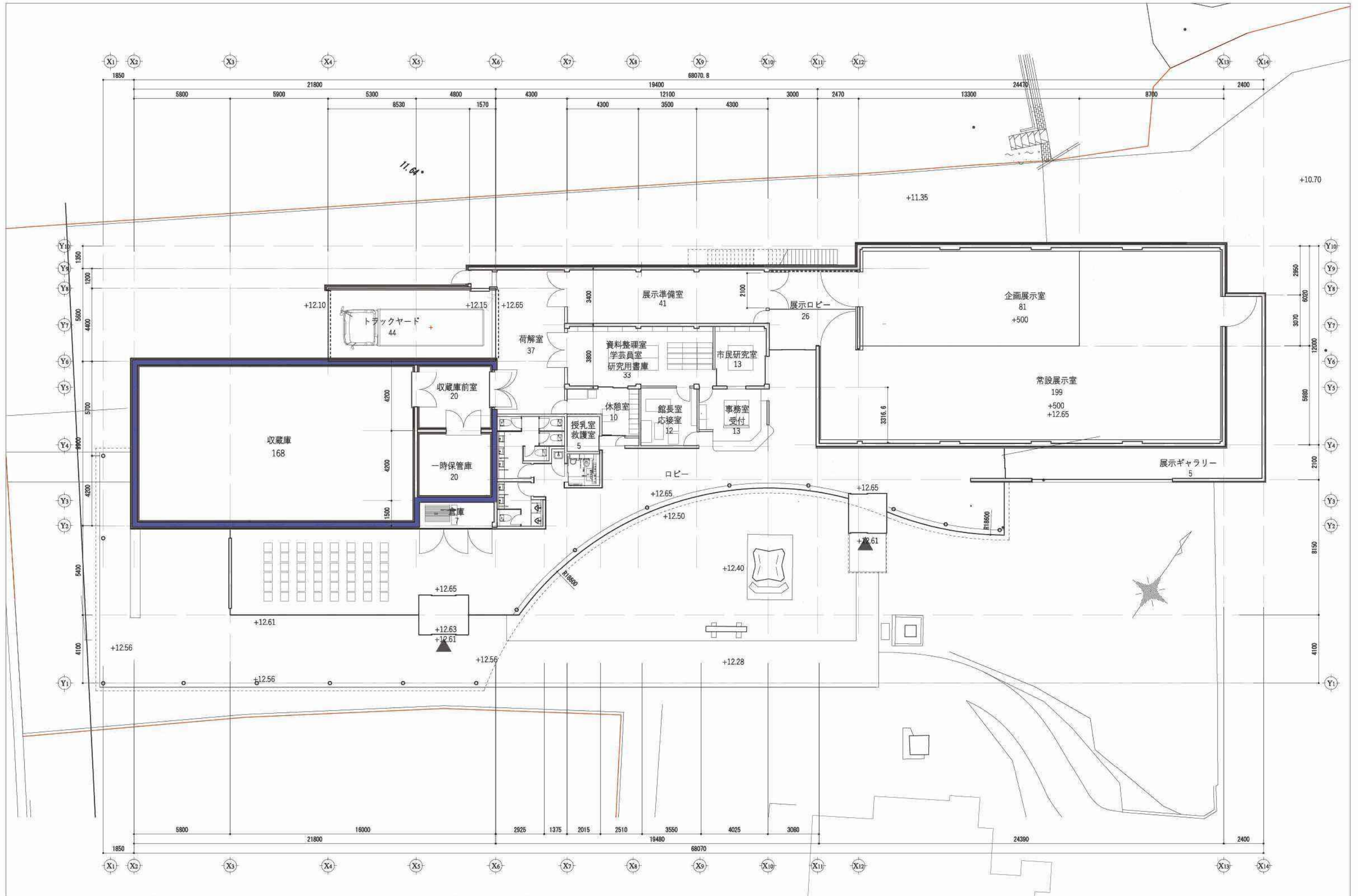
位置図 S=1:50,000

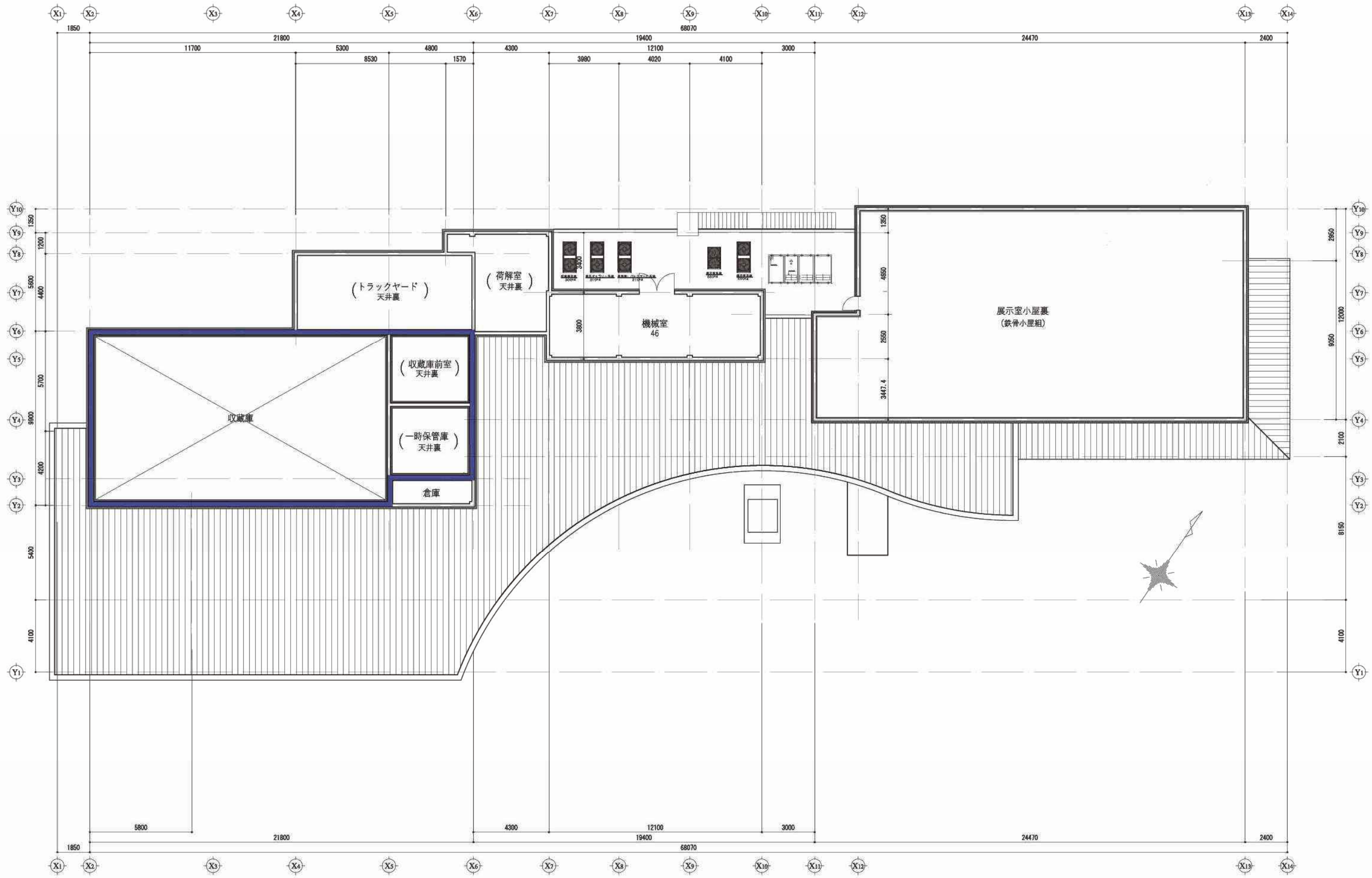
計画地：千葉県野田市関宿町1273番地

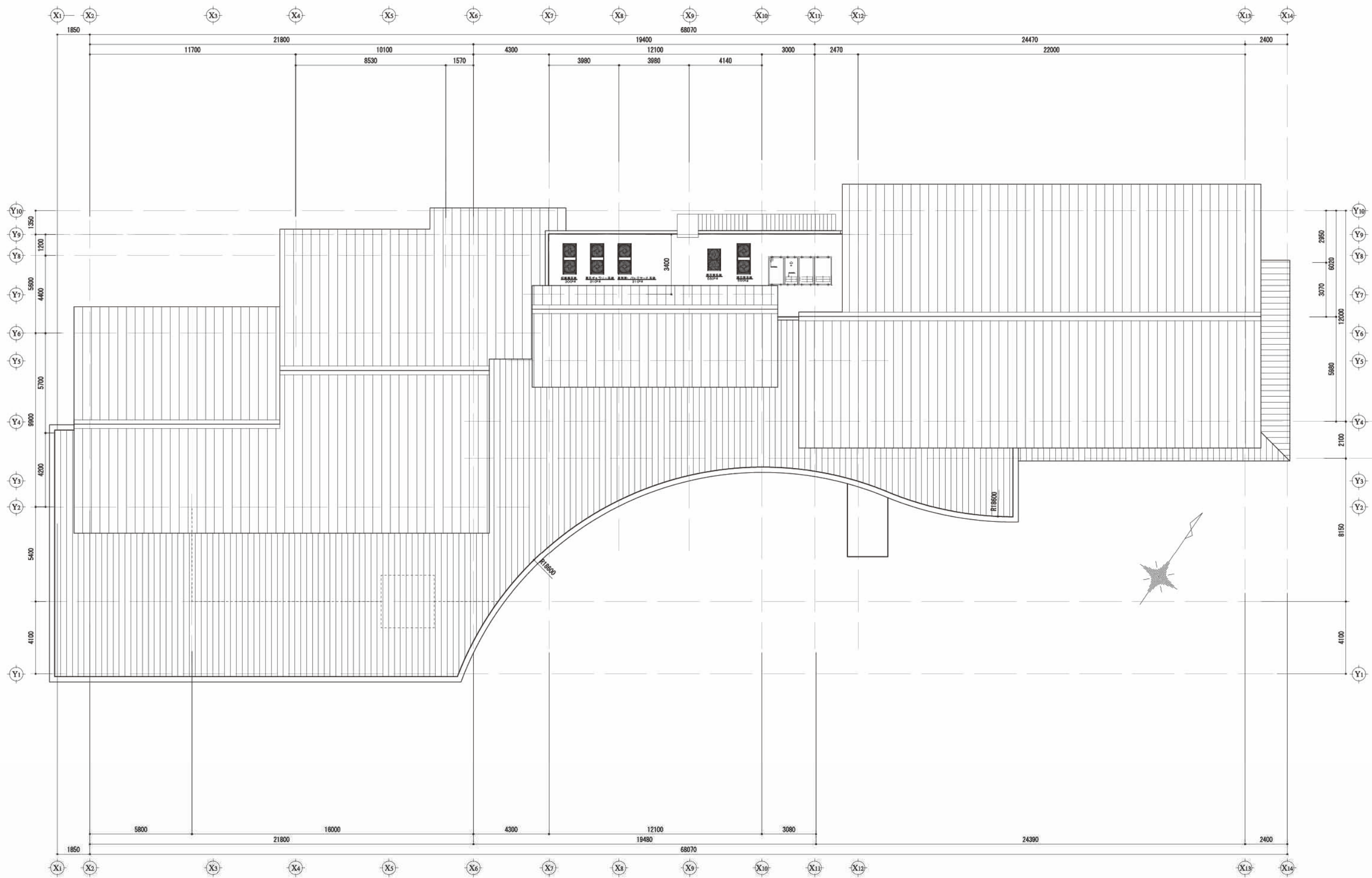


凡例
 計画地盤高
 現状地盤高
 ※計画地盤高も同じ

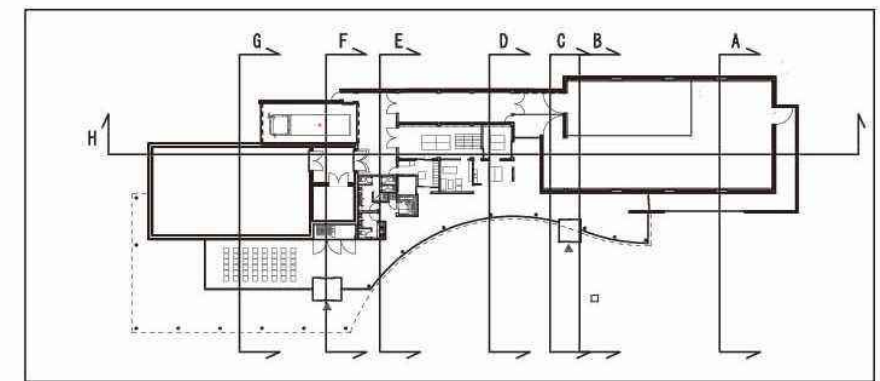
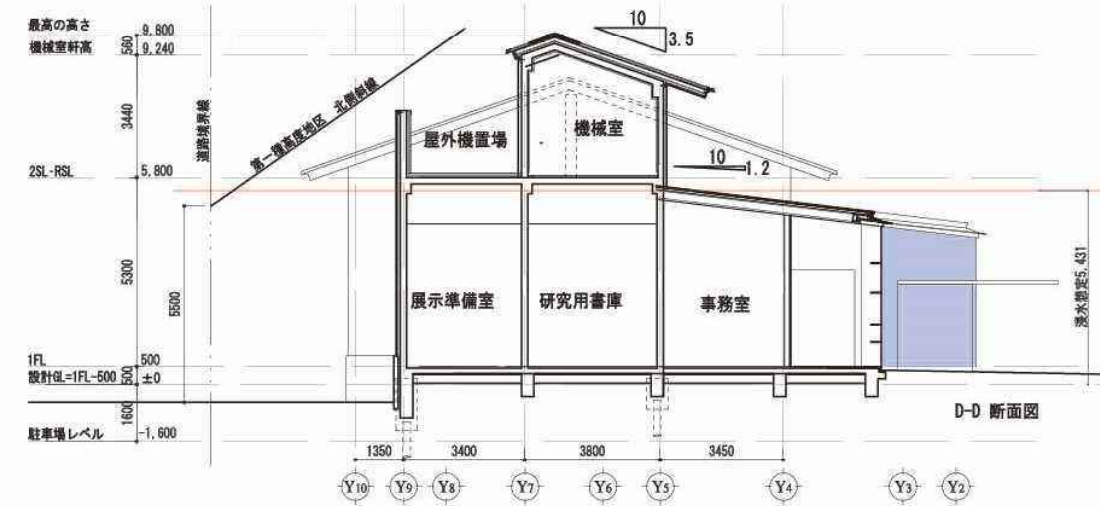
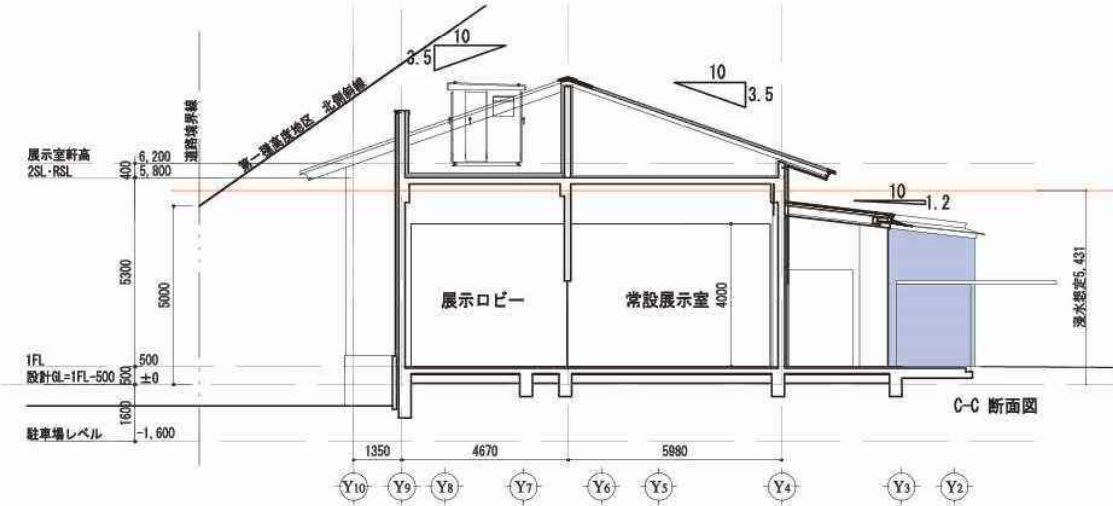
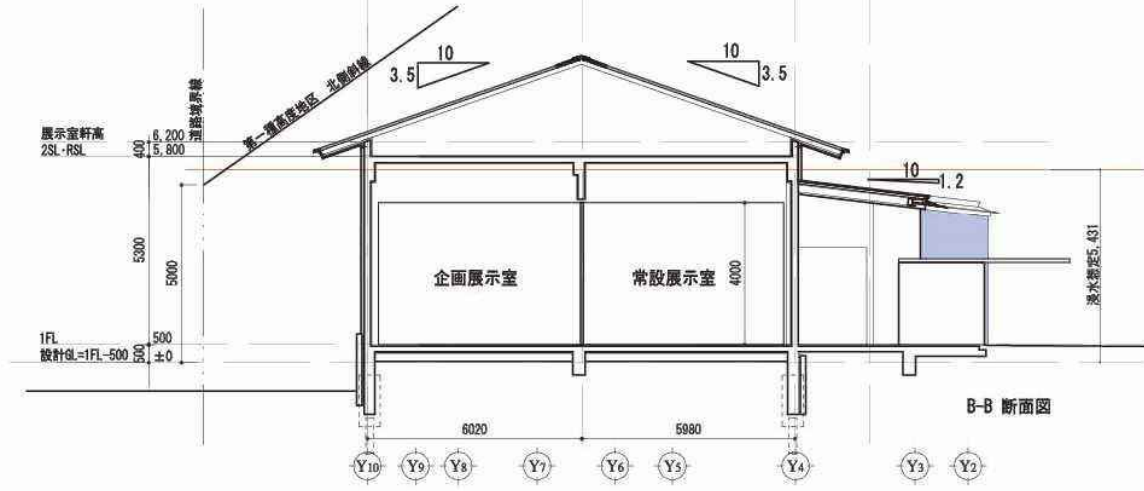
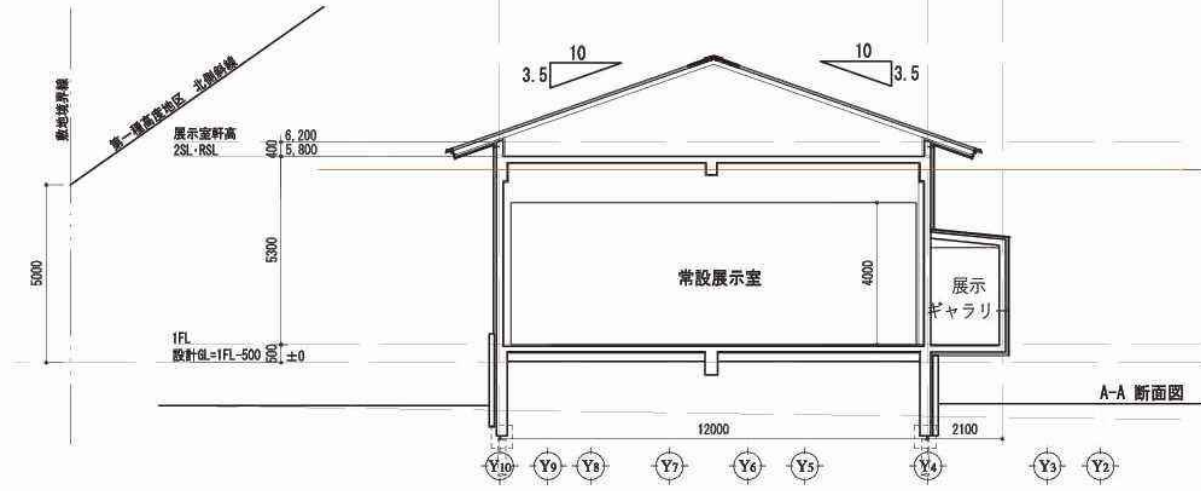
	PROJECT	DESIGNED	CHECKED	DRAWN	MEMO	TITLE	DATE	NO.
	野田市鈴木寛太郎記念館再建 建築基本設計	小林宜文	本多 豊	榎本幸男		意匠図 配置図	2026/03/11 SCALE 1/400(A3)	意匠-03

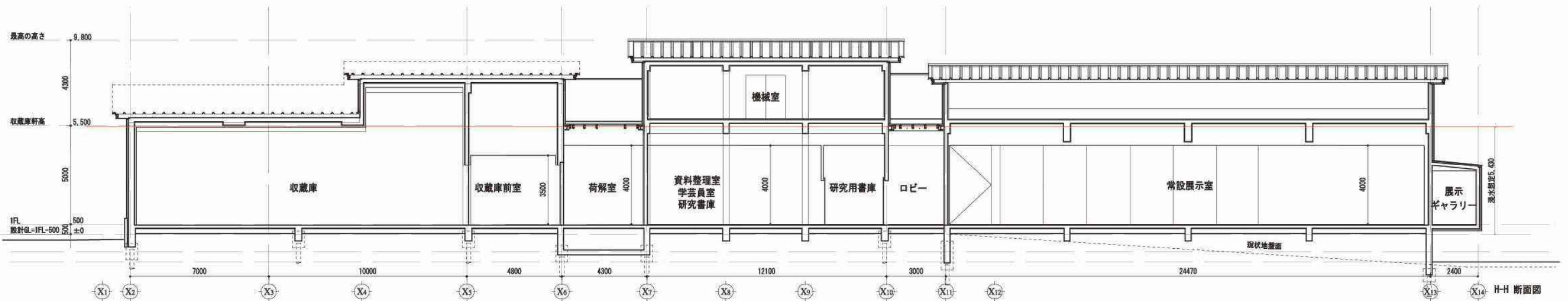
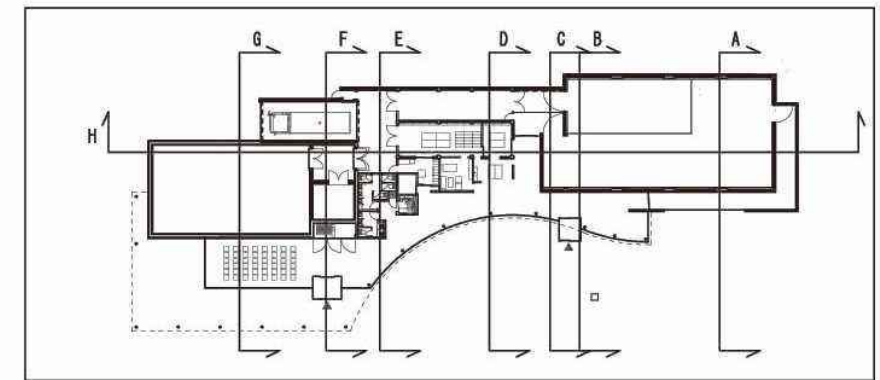
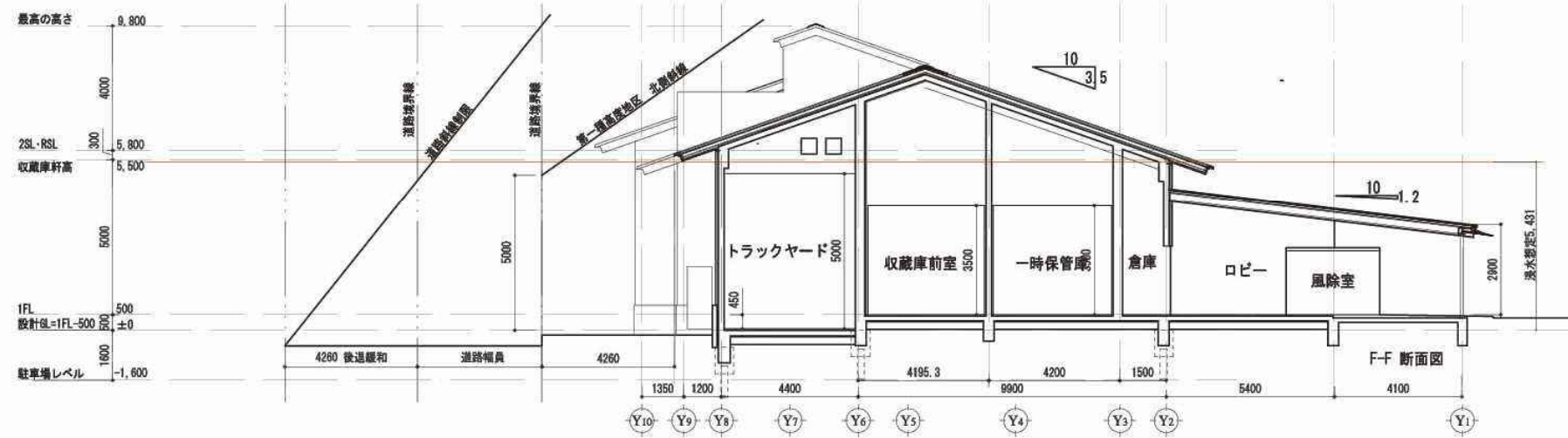


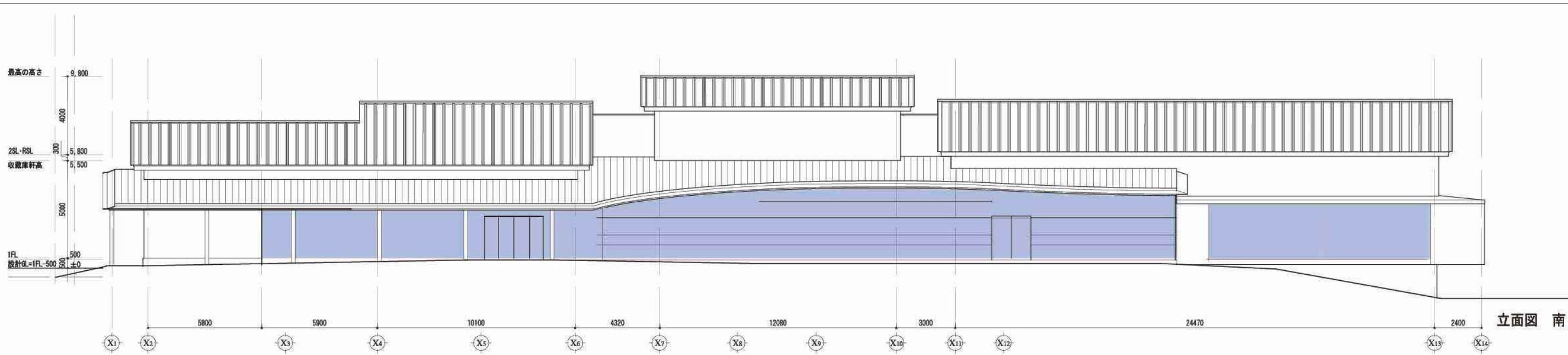




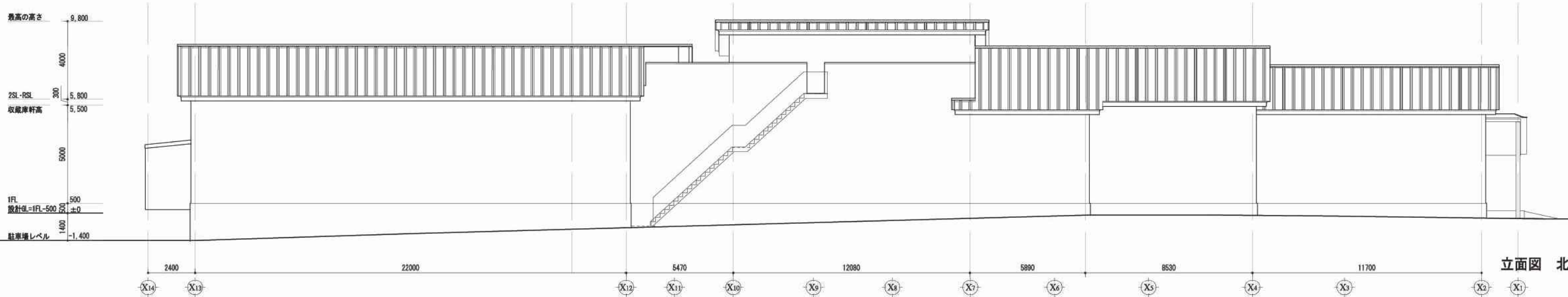
	PROJECT	DESIGNED	CHECKED	DRAWN	MEMO	TITLE	DATE	NO.
	野田市鈴木寛太郎記念館再建 建築基本設計	小林宜文	本多 豊	榎本幸男		意匠図 屋根伏図	2026/03/11 SCALE 1/200(A3)	意匠-06



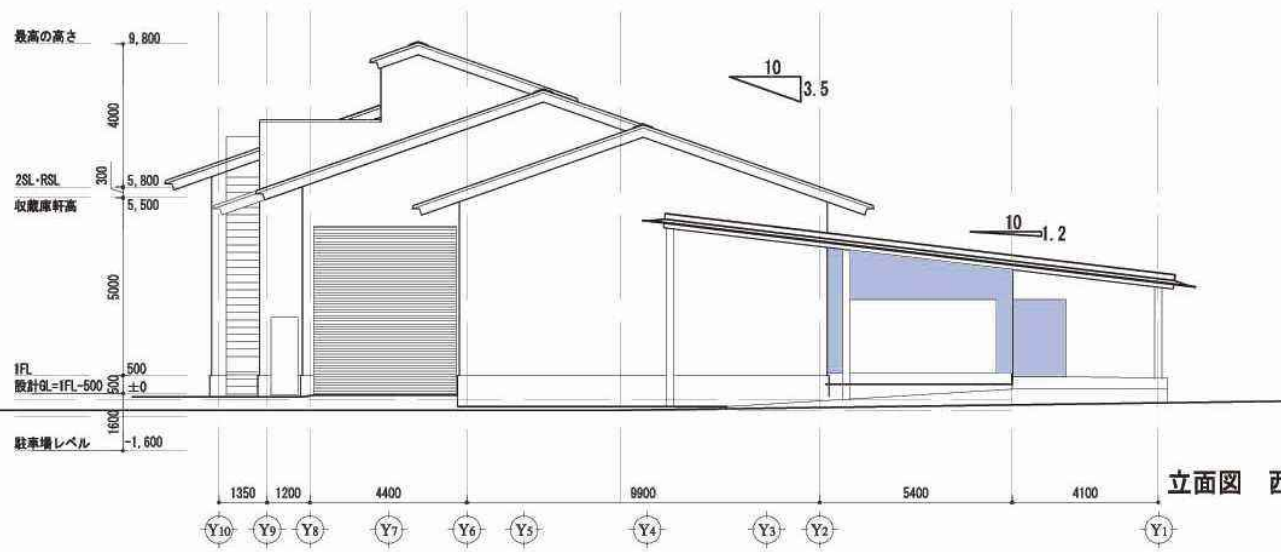




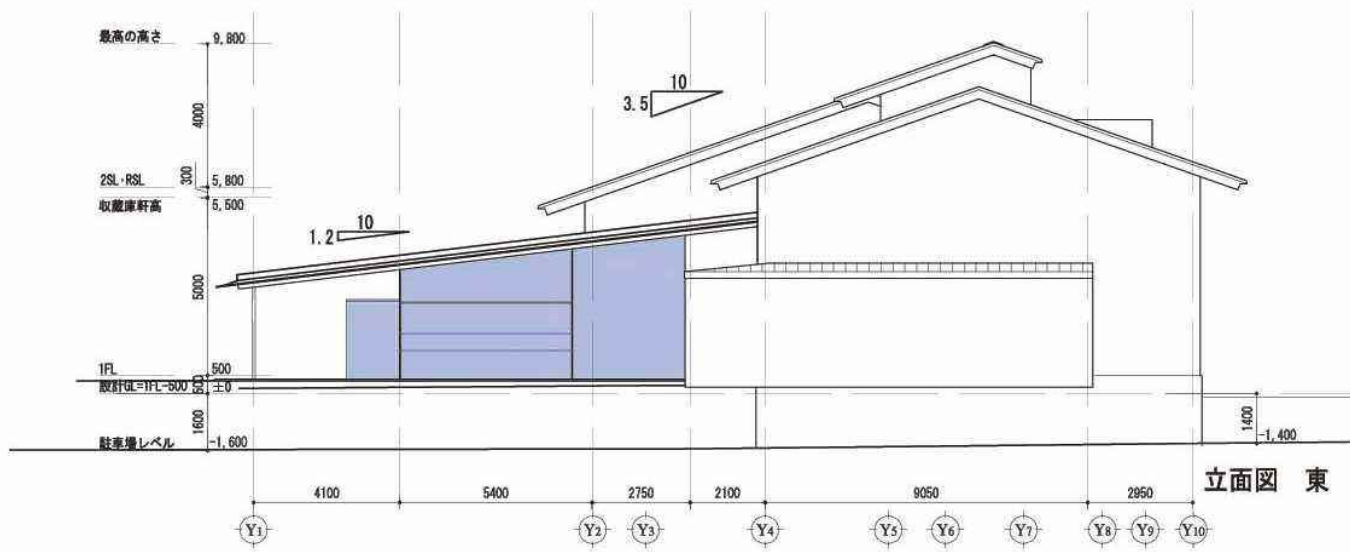
立面図 南



立面図 北



立面図 西



立面図 東

	PROJECT	DESIGNED	CHECKED	DRAWN	MEMO	TITLE	DATE	NO.
	野田市鈴木寛太郎記念館再建 建築基本設計	小林宜文	本多 豊	榎本幸男		意匠図 立面図	2026/03/11 SCALE 1/200(A3)	意匠-09

構造

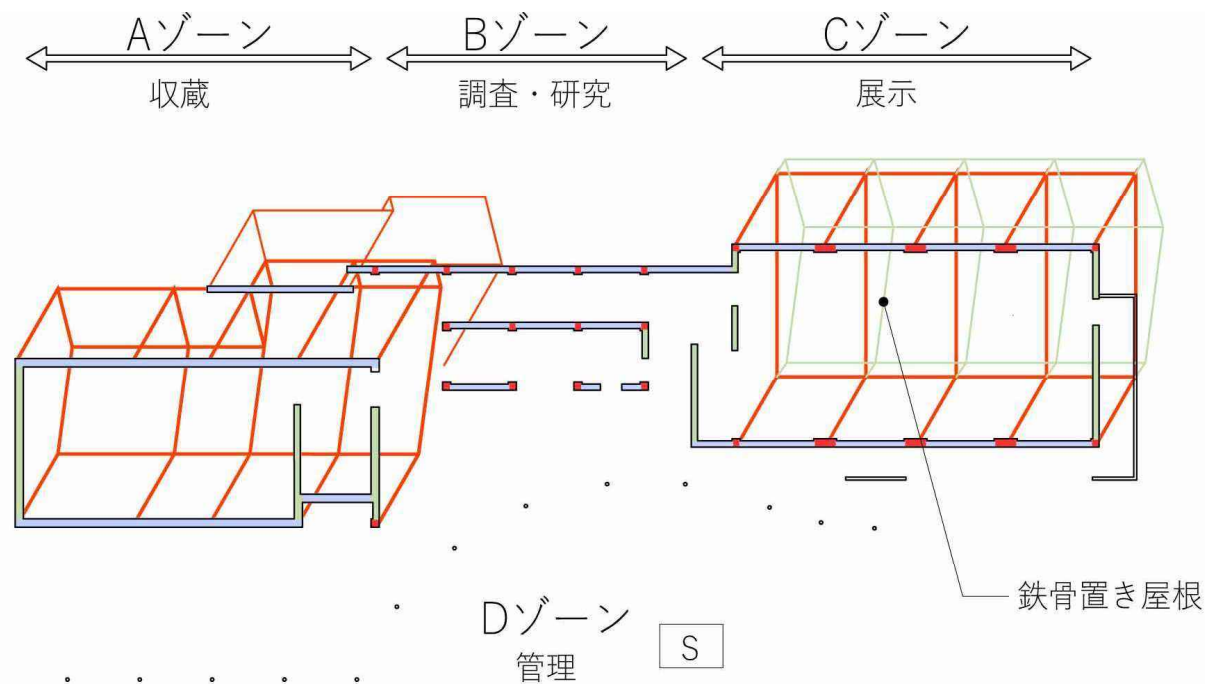
I：計画説明

1. 基本方針

- 架構計画および構造種別は「建築・設備計画との整合性」「経済性」「施工性」等に十分配慮した最適なものにする。
- 基礎形式は杭基礎とし、各基礎には剛強な基礎梁を配置して連結する。
- 偏心率を適切に評価し剛性バランスに十部配慮した架構とする。
- 構造計算上特に配慮すべき事項を以下に示す。
- 構造計算ルートは、大地震時でも損傷程度に抑えるため強度型のルート1を採用する。
- 外力分布は一時設計、二次設計ともにA i 分布を採用する。

2. 構造計画

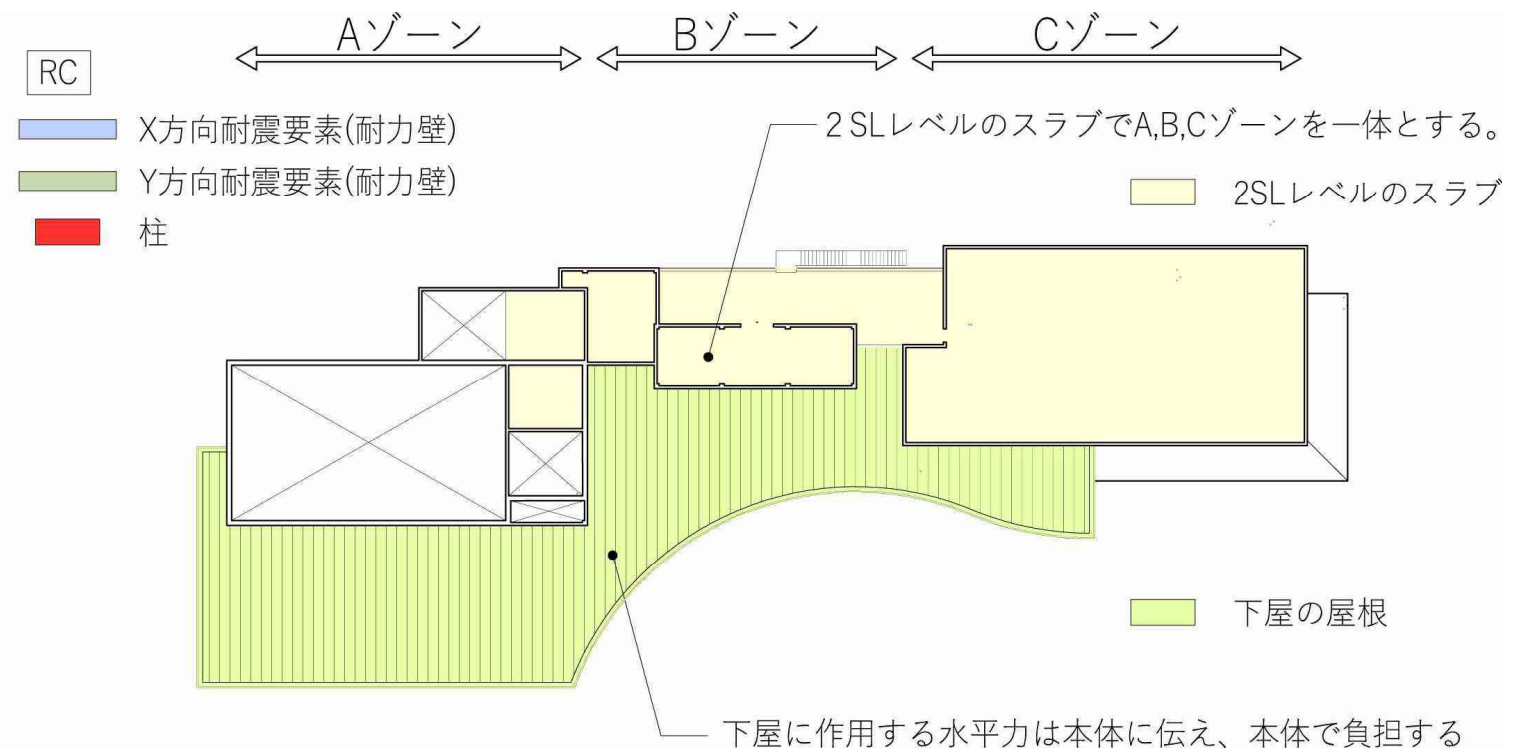
- 構造種別は、耐火性、耐震性、耐久性、地盤特性から直接基礎は難しいこと、および水害（水圧）の可能性等を考慮し、鉄筋コンクリート構造を採用する。
- 一部鉄骨構造を採用するが耐震要素とはしない。



3. 耐震安全性の目標

- 耐震安全性の目標は、下記参考文献（*）を準用し設定する。
- 大地震時の層間変形角の制限を1/200とする。
- 耐震安全性の分類による重要度係数Ⅱ類を準用する。

*「建築構造設計基準の資料（令和3年）」-国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課



II：設計概要

1. 構造形式

- 1) 構造種別は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）とする。
- 2) 構造形式は、XY両方向とも耐震壁付きラーメン架構とする。
- 3) 基礎種別は、地盤特性から既成杭（鋼管杭）による杭基礎とする。
 - ・近隣ボーリングデータより、GL-11m付近までN値10以下の粘土質層が続いている。
 - ・建物規模と土質構成から基礎はGL-11m以深の中砂層を支持層とする杭基礎とする。
 - ・敷地内で地盤照査を行い液状化および圧密沈下に対して安全な基礎構造とする。

2. 設計用外力

〔積載荷重〕 積載荷重は、建築基準法に定められた基準値を基に、実状に応じて荷重を設定する。

(N/m²)

主な室名	床・小梁用	架構用	地震用	備考
屋根	2900	2400	1300	令85条屋上広場準用
収蔵庫	12000	11000	7200	実状に応じて算定
展示室	4900	4600	3000	実状に応じて算定
職員用諸室	1800	1300	600	令85条居室

〔積雪荷重〕 最深積雪量 : 40 cm
 比重 : 20 N/cm³
 積載荷重 : 40×20 = 800N/m²

〔積雪荷重〕 風圧力は、建築基準法施工令第87条および、H12年建設省告示第1454号に基づき計算する。
 地表粗度区分 : III
 基準風速 : 34m/s 耐風に関する性能の分類IIに属するものとし風圧力の割増(1.15)を行う。

〔地震荷重〕 建築基準法に基づき一次設計（中地震）、二次設計（大地震）の2段階の標準層せん断力係数を設定する。
 外力分布は一次設計（中地震）、二次設計ともにA_i分布を採用する。
 本建物は耐震安全性の分類に応じた重要度係数(1)のII類に属するものとし、求められる耐震性能を確保するため必要保有水平耐力の割増(1.25)を行う。

3. 主な構造使用材料

- ・使用材料は品質の保証された材料を用いるものとし、JIS認定品または国土交通大臣が認定した材料を用いるものとする。

コンクリート 設計基準強度 : FC24 (N/mm²)
 鉄筋（異形棒鋼）D16以下 : SD295
 D19～D25 : SD345
 D29以上 : SD390
 鉄骨 建築構造用圧延鋼材 : SN400 (SS400)、SN490 (SN490)

I：計画説明

1. 基本方針

- 1) 安全性と信頼を確保した計画とする。
- 2) 合理的な設備方式とする。(省エネルギー、省資源化)
- 3) 管理運営、保守管理の容易な設備方式とする。
- 4) 将来対応の容易なシステムとする。
- 5) 経済性 汎用性のある機器類を選定することで維持管理費の削減を図る。
- 6) 環境配慮 環境への負荷低減を図り、エコケーブル等を採用する。
- 7) 利便性 照明点灯や空調管理を遠隔操作出来るシステムを構築する。
- 8) 重要性 火災や災害時に展示物の保護が可能なシステムを構築する。
- 9) 河川氾濫浸水対策 標準仕様に準ずる範囲で、可能な限り配慮する。

2. 電気設備項目

- 1) 電力引込設備
- 2) 受変電設備
- 3) 幹線設備
- 4) 動力設備
- 5) 電灯・コンセント設備
- 6) 構内情報通信網設備
- 7) テレビ共聴設備
- 8) 電話設備
- 9) インターホン・トイレ呼出設備
- 10) 映像・音響設備
- 11) 機械警備設備(監視カメラ設備含む)
- 12) 火災報知設備

II：設計概要

1. 電力引込設備（既存利用）

敷地西側の高圧線路より新設構内柱へ架空にて引込を行う。

引込み後、地中埋設、電線管にて受変電設備まで高圧幹線を敷設する。

2. 受変電設備

RFの室外機置場に屋外型キュービクル式受変電設備を設置する。

また、受変電設備は消防庁告示第7号に準拠した非常電源専用受電設備とする。

- 1) 受電方式 三相三線式6.6kV50Hz 1回線受電
- 2) 契約種別 業務用電力
- 3) 主要機器
主遮断器 高圧負荷開閉器
変圧器 油入式変圧器(温度表示付)(2026
トッランナー)
コンデンサ 油入式(異常警報付)
リアクトル 油入式(異常警報付)
- 4) 設備容量
電灯用変圧器 単相三線 100kVA×1台
動力用変圧器 三相三線 150kVA×1台
※負荷容量は実施設計にて再検討とする。
- 5) 換気装置の発停はサーモスタットによる自動発停とする。
メーター、スイッチ類は全てキュービクル扉内とし、計測点検は扉の点検窓からとする。

3. 幹線設備

受変電設備より各エリアの電灯分電盤、動力制御盤及び各種電源盤へ電源供給する。

- 1) 電気方式
電灯用 単相三線210/105V 50Hz
動力用 三相三線210V 50Hz
- 2) 配線方式 ケーブルラック・天井内コロガシ及び電線管
- 3) 使用電線
一般幹線 EM-CE、CETケーブル
防災幹線 EM-FP-C、FPTケーブル
- 4) その他
防火区画貫通部は国土交通省大臣認定工法により防火区画貫通処理を施す。
雷保護のため、各分電盤主幹一次側に避雷器を設置する。
- 5) 計量
受変電設備で電力量の計量を行う。(一括計量)

4. 動力設備

動力制御盤から空調、ポンプ及びその他機器への電源供給と電動機の保護及び運転制御を行う。

- 1) 電気方式 三相三線210V 50Hz
- 2) 配線方式 ケーブルラック・天井内コロガシ及び電線管
- 3) 使用電線
一般配線 EM-IE、EM-CE、CETケーブル
防災配線 EM-FP-C、FPTケーブル
- 4) 監視 遠方発停及び警報盤を設置する。

5. 電灯・コンセント設備

電灯分電盤・照明器具、コンセントの新設、配管配線を行う。

照明方式は電力消費節約のため、LEDによる全般照明を主体とし、照明計画については目的、用途により建築意匠と調和の取れた計画とする。

非常照明・誘導灯は建築基準法、消防法に準拠し設置する。
※誘導灯は自主設置とする。

- 1) 照度基準 JISZ9110-2024を参考とし、照明計画を行う。
- 2) 電気方式 単相三線210/105V 50Hz
- 3) 防災照明 非常照明 電源内蔵型(建築基準法に準拠) 誘導灯 電源内蔵型一般形(消防法に準拠)
- 4) コンセント 大容量器具や運営上 単独の供給回路を必要とする機器については、要望のあった位置、容量、供給形態で電源を供給する。
- 5) 照明器具 光源は省エネルギー及び保守性を考えてLEDを中心にした計画とする。
将来的な展示レイアウト変更等にも対応可能な計画する。
トイレ、共用部等は人感センサーにより省エネルギー対応を行う。
- 6) 点滅 リモコンスイッチを各エリアの最終退館者が操作容易な場所に設置し、事務室と両方から操作可能なシステムとする。
また、千鳥配線や窓際の点滅回路を分ける等、節電可能な回路を考慮する。
屋外は年間プログラムタイマー及び自動点滅器により制御する。
- 7) 収蔵庫・展示室の電源管理 室内の照明、コンセント、その他の電源は火災予防のため、室外で遮断できるように電源管理スイッチを設置する。
不在時には容易に電源を完全に遮断できるようにする。
非常照明はバッテリー別置型とし、バッテリーは室外に設置する。

6. 構内情報通信網設備

敷地西側より新設構内柱(電力・通信共用)に架空にて光回線の引込みを計画する。

事務室より配管配線を敷設する。光回線は一般系統・基幹系統の2系統とする。

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1) 配線方式 | ケーブルラック及び電線管 |
| 2) 使用電線 | EM-UTP(CAT6A)(参考) |
| 3) その他 | サーバー・HUB・AP及び端末機器(PC等は別途工事とする。 |

7. テレビ共聴設備

受信方式はUHFアンテナを新設し、地上波デジタル放送受信への対応を考慮する。

端子盤を経て、各室テレビアウトレットまで配管配線を行う。

機器・配線は全て4K8K受信対応とする。

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 1) 配線方式 | ケーブルラック・天井内コロガシ及び電線管 |
| 2) 使用電線 | EM-S7C-FB(幹線)、EM-S5C-FB(分岐) |
| 3) その他 | 端末受信レベルはゴーストを配慮した電界強度数値(dB)を確保する。 |

8. 電話設備

敷地西側より新設構内柱(電力・通信共用)に架空にて電話回線の引込みを計画する。

事務室の電話交換機(別途)より端子盤を経て各室取出口まで配管配線を行う。

(交換機・電話機等は別途工事)

- | | |
|---------|--------------------------|
| 1) 配線方式 | ケーブルラック及び電線管 |
| 2) 使用電線 | EM-CCPP(幹線)、EM-BTIEE(分岐) |

9. インターホン・トイレ呼出設備

外部来訪者と事務室での対応を可能にするためインターホンを設置する。

多目的トイレには呼出ボタンを設置し、呼出表示器は事務室に設置とする。

10. 映像・音響設備

展示計画に合わせて1次側設備を計画する。

11. 機械警備設備(監視カメラ設備含む)

機械警備管理が可能なように、電源の確保及び配管配線を敷設する。

機械警備設備機器及び取付工事は別途警備会社との契約により警備会社にて行う。

12. 火災報知設備

受信機を事務室に設置し、感知器及び配線を新設する。

警報設備はベルによる方式とする。

- | | |
|----------|----------------------|
| 1) 受信機仕様 | P型1級 |
| 2) 配線方式 | ケーブルラック・天井内コロガシ及び電線管 |
| 3) 使用電線 | EM-HP、AEケーブル |

I：計画説明

1. 基本方針

給排水衛生設備・空調換気設備について次の様な基本方針を定め、その方針に沿って各設備毎に具体的な計画をまとめる。

(1) 安全性の確保

- ・職員及び来館者の方へ安全性に配慮した計画とする
- ・感染症対策に有効な設備を優先的に採用し将来に渡り健康・安心な施設とする
- ・災害時BCP対応としての機能に配慮し、必要設備のバックアップ構築を行う

(2) 快適性の確保

各系統毎の適切なゾーニングを行い使用目的に合った設備計画を行う

- 1) 各ゾーン毎に個別運転可能な空調方式の採用
- 2) 冷房・暖房の切り替えや運転管理が容易な空調方式の採用
- 3) ヒートショックを防止するため室内温度差の少ない空調方式の採用

(3) 地球環境への配慮

地球環境に配慮した設備計画を行う

- 1) 省エネルギーを図るため効率の良い機器の選定
- 2) イニシャルコスト及びランニングコストの経済性の追求
- 3) CO₂排出量の少ない設備システムの採用
- 4) 再生可能エネルギーを利用したパッシブな設備システムの選定検討

(4) 耐久性、維持管理への配慮

長寿命でしかも将来の設備システムの更新が容易にできる設備計画を行う

- 1) 衛生陶器は耐久性、防汚性に優れ清掃、メンテナンスが容易な器具の採用
- 2) 各種配管類は極力環境負荷の少ない材料及び腐食の少ない長寿命な材料による樹脂管を採用する
- 3) 維持管理及び更新性を考慮した配管スペースの確保
- 4) 施工上の経費節減に関連し、プレファブ工法等現場労務経費の削減を期待しうる設計手法を確立する

Ⅱ-1：給排水衛生設備設計概要

1. 給水設備

西側前面道路埋設の給水本管φ150からの既設φ20取出管を撤去し、新たにφ25取出管に更新とする。仕切弁、量水器を経て水道直結直圧方式にて給水必要箇所へ給水を行う。

[配管材料] (土中) 水道用耐震型高性能ポリエチレン管 (継手：電気融着継手)
(屋内一般) 水道用耐震型高性能ポリエチレン管 (継手：電気融着継手)
(屋外散水) 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (HVP)

[弁 類] J I S - 1 0 K

[防 露] グラスウール保温筒20mm

屋外露出部はステンレスラッキング仕上げとする。

2. 給湯設備

休憩室ミニキッチン等給湯必要箇所に電気温水器を設置し、個別給湯を行う。

[配管材料] 一般配管用ステンレス鋼管 継手：拡管式継手

[弁 類] J I S - 1 0 K

[保温材料] グラスウール保温筒20mm

3. 排水通気設備

建物内では汚水、雑排水を屋内分流とし、屋外排水柵にて合流後敷地北側埋設の下水道本管φ200へ既設最終柵より放流を行う。通気は伸長通気及び回路通気方式とする。雨水については屋根縦樋及び敷地内集水柵からの雨水は雨水浸透柵にて宅内浸透を行い、オーバーフローについては道路側溝へ放流を行う。

[配管材料] 汚水管 :耐火二層管(乾式目地カバー)

雑排水管 :耐火二層管(乾式目地カバー)

土中埋設管 :硬質塩化ビニル管(VP)

通気配管 :耐火二層管(乾式目地カバー)

4. 衛生器具設備

トイレ、給湯室等の必要箇所に衛生陶器及び水栓器具等を強固に取付ける。

衛生陶器及び水栓器具類はJIS認定品及び同等品以上を使用する。陶器色及び取付高さ等については監督員の指示による。

トイレ手洗い等の水栓については非接触型の自動水栓を採用し、感染症対策を図るものとする。

5. 消火設備

耐火建築物とし、消火器を設置する。

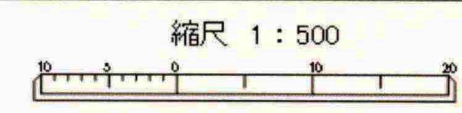
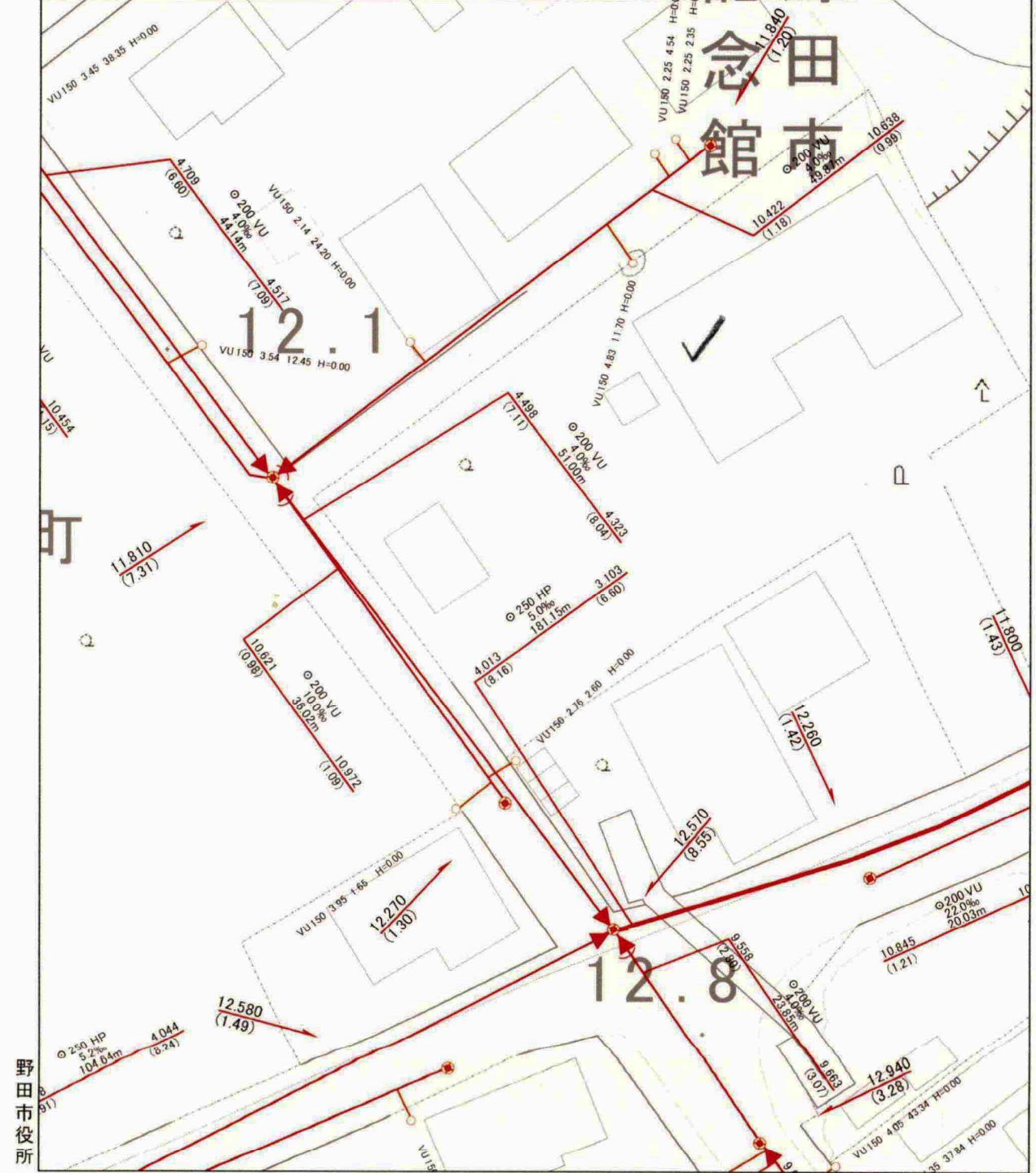
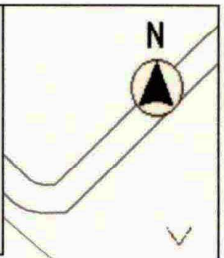
収蔵庫は自主的耐火区画し、照明、コンセント等の電源を遮断することで火元が存在しないため、

ガス消火設備は設置せず、維持管理費を縮減する。(ガス消火器を検討する)



野田市下水道台帳図

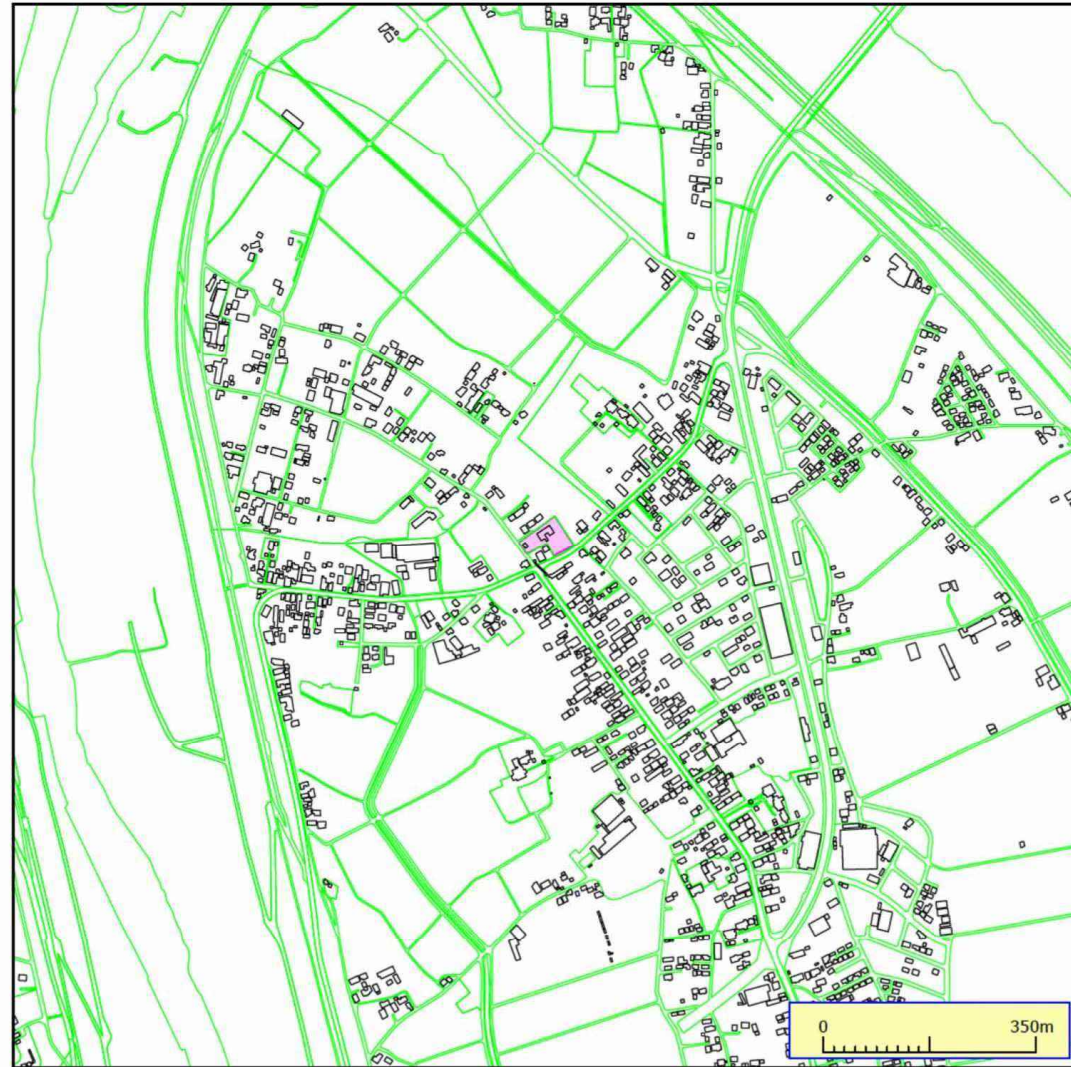
- ・下水道台帳図は参考図であり、実際とは異なる場合があります。
- ・本台帳図の利用により発生した、直接または間接の損害・損失等について、市は一切の責任を負いません。
- ・本台帳図を基に建築や施設の設計等にあたる場合は必ず現地調査をし施設を確認してください。
- ・本台帳図は直近の下水道工事の情報や他の道路工事等により状況が変わった場合の情報等が反映されていない場合がありますので必ず現地調査をし施設を確認してください。
- ・本台帳図を権利や義務の発生するもの、取引の資料などを目的に使用しないでください。
- ・本台帳図の地図情報は、土地の境界を示すものではありません。
- ・本台帳図の複写はご遠慮ください。



2025年11月13日出図

◇調査場所：千葉県野田市関宿町（字・丁目なし）付近
・【弊社の供給エリア外である可能性があります】

◇ご回答日：2025年11月12日（水） ◇受付番号：5638502
◇件名：（仮称）野田市鈴木貴太郎記念館再建計画



※ガス管圧力の種類と凡例、用途（高圧、中圧は一般用途にはご利用になれませんのでご注意ください）
(1) 高圧：輸送用のみ (2) 中圧：輸送用と主に産業用途 (3) 低圧・中間圧：家庭用等の一般用途

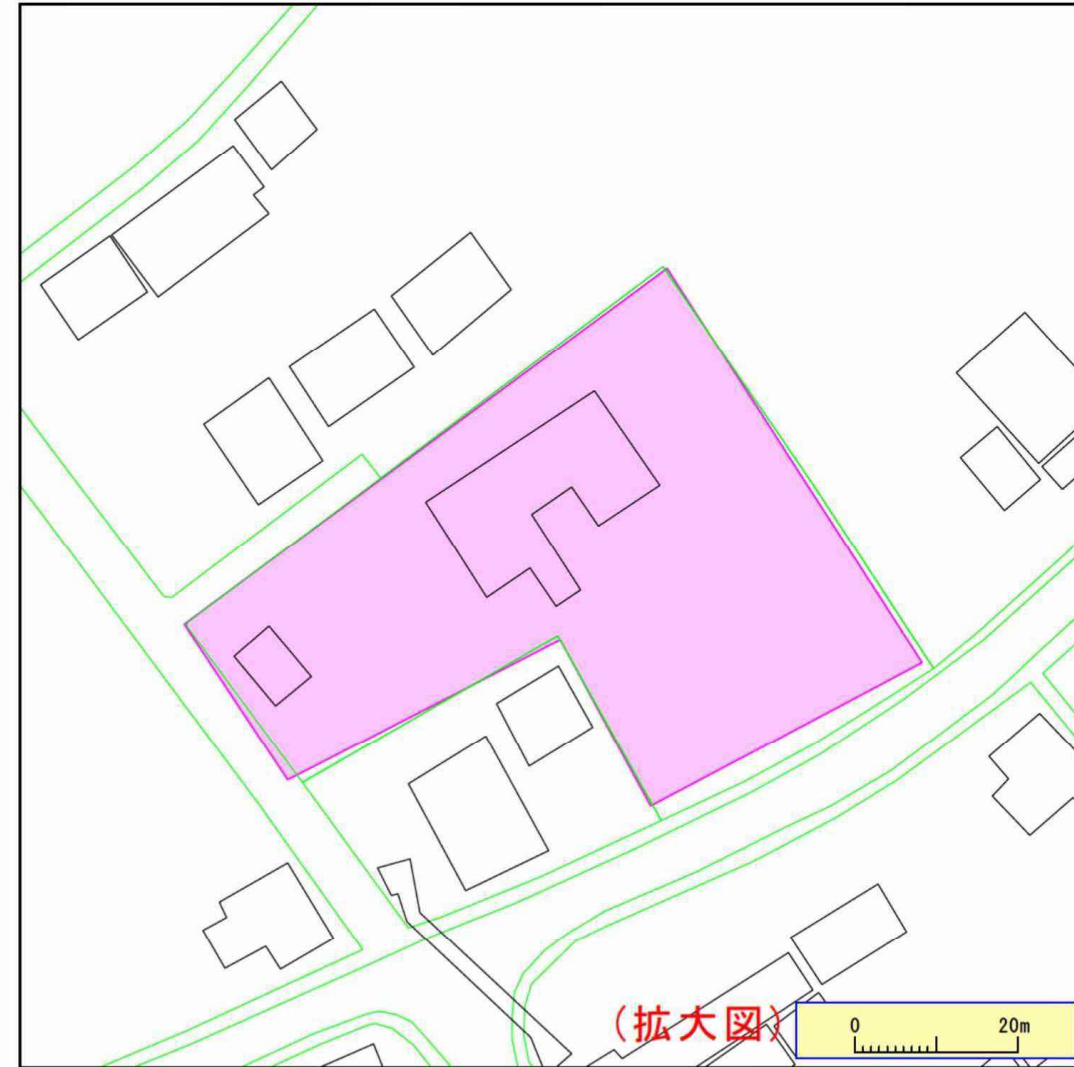
下記の文章について、必ずご確認ください。
◆弊社がガス本管埋設状況確認サービス（以下「本サービス」とします）でご提供する情報は、地形、道路形態、家形を除くガス本管の有無・工事予定ルート、埋設位置、口径です。なおご参考に、取出し管の分岐位置を表示しておりますが、個人情報保護のため宅内の引込状況及びガスのご使用状況は表示しておりません。
◆弊社は、ご提供する情報が正確かつ最新であるよう努力しておりますが、それらについてはいかなる保障も致しません。また、本サービスご利用により生じたいかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。なお、実際の工事、ガス供給にあたっては、供給方式の検討・本支管工事の有無の確認が必要となります。
◆この地図はジオテクノロジーズ（株）データを利用しています。営利目的のご利用を禁止いたします。また、権利侵害となりますので、許可無く複製、改変、送信等を禁止いたします。

（お問合せ先）
担当部署：本管埋設状況確認センター
営業担当者：東京ガス（株）
TEL：03-5322-8910 E-mail：gpipeg@tokyo-gas.co.jp

東京ガス株式会社

◇調査場所：千葉県野田市関宿町（字・丁目なし）付近
・【弊社の供給エリア外である可能性があります】

◇ご回答日：2025年11月12日（水） ◇受付番号：5638502
◇件名：（仮称）野田市鈴木貴太郎記念館再建計画



※ガス管圧力の種類と凡例、用途（高圧、中圧は一般用途にはご利用になれませんのでご注意ください）
(1) 高圧：輸送用のみ (2) 中圧：輸送用と主に産業用途 (3) 低圧・中間圧：家庭用等の一般用途

下記の文章について、必ずご確認ください。
◆弊社がガス本管埋設状況確認サービス（以下「本サービス」とします）でご提供する情報は、地形、道路形態、家形を除くガス本管の有無・工事予定ルート、埋設位置、口径です。なおご参考に、取出し管の分岐位置を表示しておりますが、個人情報保護のため宅内の引込状況及びガスのご使用状況は表示しておりません。
◆弊社は、ご提供する情報が正確かつ最新であるよう努力しておりますが、それらについてはいかなる保障も致しません。また、本サービスご利用により生じたいかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。なお、実際の工事、ガス供給にあたっては、供給方式の検討・本支管工事の有無の確認が必要となります。
◆この地図はジオテクノロジーズ（株）データを利用しています。営利目的のご利用を禁止いたします。また、権利侵害となりますので、許可無く複製、改変、送信等を禁止いたします。

（お問合せ先）
担当部署：本管埋設状況確認センター
営業担当者：東京ガス（株）
TEL：03-5322-8910 E-mail：gpipeg@tokyo-gas.co.jp

東京ガス株式会社

II-2：空調換気設備設計概要

1. 熱源設備

1) 熱源設備計画の基本的考え方

以下の項目を重点的に配慮し本計画に最適なシステムを構築する

<地球環境への配慮>

- ・CO₂排出量、省エネルギー運転などの観点から地球環境への影響の少ないシステムの選定をはかる
- ・高効率機器の選定により法基準よりも高い省エネ性能の向上をはかる

<負荷変動対応>

- ・各ゾーン毎に主たる使用時間が異なることが想定され、きめ細やかな負荷変動の対応が可能なシステム選定をはかる

<近隣環境への配慮>

- ・騒音・振動の少ない機器の選定を行い近隣環境への影響の少ない機器の選定を

<持管理の容易なシステム構成>

- ・熱源機器類は汎用機器を採用し基本的にメンテナンスフリーな機器の選定
- ・機器更新時が容易な機器の選定および設置とする

<運転管理の容易なシステム構成>

- ・日常的な運転管理が容易な機器の選定
- ・スケジュール運転による自動運転システムを構築する

<展示環境及び収蔵品に対する空調対応>

- ・展示室及び収蔵庫は恒温恒湿環境を維持し、害虫、雑ガス等収蔵品に有害な物質の侵入についても適切な対応をはかる

2) 設計用温湿度目標条件

設計用外気条件を下記とする (建築設備設計基準 令和6年版)

	外気条件(東京)		室内条件(一般室)		室内条件(展示室)		室内条件(収蔵庫)	
	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度
	DB [°C]	RH [%]	DB [°C]	RH [%]	DB [°C]	RH [%]	DB [°C]	RH [%]
冬 期	2.2	44.8	22.0	45±5	20±2	55±5	20±2	58±3
夏 期	34.8	59.4	26.0	50±5	24±2	55±5	24±2	58±3

3) システム概要

空調熱源においては都市ガス供給エリア外となっているため、電気空冷ヒートポンプ方式と、LPガス空冷ヒートポンプ方式を別紙空調熱源方式比較表にて評価を行い、コスト及び総合評価において電気空冷ヒートポンプ方式が優位であると判断されるため電気空冷ヒートポンプ方式の採用を前提に計画を行う。

■空調熱源方式比較表

※評価記号：◎望ましい：3 ○問題ない：2 △多少問題あり：1

比較項目		①電気空冷ヒートポンプ方式(EHP)	②ガス空冷ヒートポンプ方式(GHP)LPガス
システム概略図			
システム概要		電気モーターを動力として空冷式ヒートポンプを熱源に使用。冷媒を介して室外機～室内機冷温熱を供給することで、冷暖房を行うシステム	ガスエンジンを動力として空冷式ヒートポンプを熱源に使用。冷媒を介して室外機～室内機へ冷温熱を供給することで、冷暖房を行うシステム
集中・分散方式区分		屋外機系統毎の個別空調方式	屋外機系統毎の個別空調方式
想定機器容量		展示室系統 24HP ロビー系統 26HP 展示ギャラリー 16HP 事務室系統 12HP	展示室系統 25HP ロビー系統 25HP 展示ギャラリー 16HP 事務室系統 16HP
機器設置場所		空気熱源のため設置は屋外に限定される	◎ 空気熱源のため設置は屋外に限定される LPガスの供給が必要 ◎
省エネルギー性		空気中の熱を利用するため省エネ性能は高い	○ 空気中の熱を利用するため省エネ性能は高い ガスエンジンの排熱を暖房時に利用できるためEHPに比べると暖房性能が高い ◎
CO2排出量		69.0t CO2/年	○ 39.0t CO2/年 ◎
メンテナンス性		消耗品が少なくほぼメンテナンスフリー	◎ 定期的にガスエンジン部分の機器メンテナンスが必要 エンジンについて消耗品の交換が必要 △
故障時の影響		ヒートポンプの故障時には、該当系統の室内機が運転不可となる 屋外機の系統別けにより影響範囲は限定される	◎ ヒートポンプの故障時には、該当系統の室内機が運転不可となる 屋外機の系統別けにより影響範囲は限定される ◎
騒音・振動		モーター及びファンからの騒音がある 86dB+84dBx2台+80dB=90dB	△ エンジン及びファンからの騒音があるがEHPと比較すると騒音値は小さい 83dBx2台+77dBx2台=87dB ○
安全性		燃焼部がないため安全性は高い 微燃性のR32冷媒を使用するため冷媒ガス漏洩に対する遮断弁設置等の安全対策が必要	△ エンジン部及び漏洩ガスについて安全対策が必要 ○
施工性		屋外機設置工事及び電源供給工事が必要 機器はユニット毎の搬入が可能のため施工性は良い	◎ 屋外機設置工事及びLPガス供給工事が必要 機器はユニット毎の搬入が可能のため施工性は良い LPガスはガスポンベの保安距離が必要となる △
災害時対応		停電時には運転不可だが 発電機による電源供給を行うことにより運転可能	○ 自立運転型機器を採用することでLPガスにより 停電時も運転可能 ◎
経済比較	(1)イニシャルコスト		
	空調屋外機器	¥16,180,000	¥27,140,000
	変電設備増加分 ガスバルクタンク980kg 計	¥5,000,000 ¥21,180,000	◎ ¥2,490,000 ◎ ¥29,630,000
(2)ランニングコスト(年間)			
光熱費	¥4,242,000	◎	¥6,071,000
維持管理費	¥43,200	◎	¥240,000
計	¥4,285,200	◎	¥6,311,000
(3)15年経費		◎	△
		¥85,458,000	◎
総合評価 (総合点◎3点 ○2点 △1点)		29	24

- まとめ
- ・空調熱源方式比較検討に当たり熱源は電気ヒートポンプ方式とガスヒートポンプ方式による比較検討を行った。
 - ・比較検討は収蔵庫を除いた展示室、ロビー、ギャラリー、事務室系統の空調熱源を対象とした。
 - ・イニシャルコストは電気ヒートポンプ方式は定価×0.7、ガスヒートポンプ方式は定価×0.8にて算出。
 - ・イニシャルコストは電気ヒートポンプ方式に変電設備増加分を見込んでもガスヒートポンプ方式よりも優位となった。
 - ・ランニングコストにおいても電気ヒートポンプ方式が安い結果となった。15年経費による比較においても電気ヒートポンプ方式が優位となった。
 - ・コスト以外の項目についてはそれぞれ特徴がありますが総合評価においては電気ヒートポンプ方式が望ましいと考えられる。

2. 空調設備

空調系統について利用目的、使用時間等を考慮し下記のように系統分けを行う。

1) 展示室系統

施設の主たる用途となり利用時間も長いいため効率が良くメンテナンスの容易な空調方式とする。

機械室内設置の床置エアコンよりダクトからの天井吹出方式とし、常設展示室、企画展示室の屋内機を分け、個別運転に対応する。

2) ロビー系統

開放性があり開口部が多く熱負荷変動が大きい空間であるため単独系統とする。事務室天井内等に天井埋込ダクト型エアコンを設置し、壁面吹出方式とする。

3) 調査・研究・管理系統

効率が良くメンテナンスの容易な空調方式とし、天井カセット型エアコンを主体として個別運転が可能な計画する。

4) 収蔵庫系統

恒温・恒湿環境を保つエアコンとし、資料の安全面から、収蔵庫外部に設置する空調機により空調する。

収蔵庫は、高气密・高断熱、調湿機能をもった室であり、頻繁な人の出入りによる負荷の少ない特質に沿った空調システムとし、ランニングコストの低減を図る。

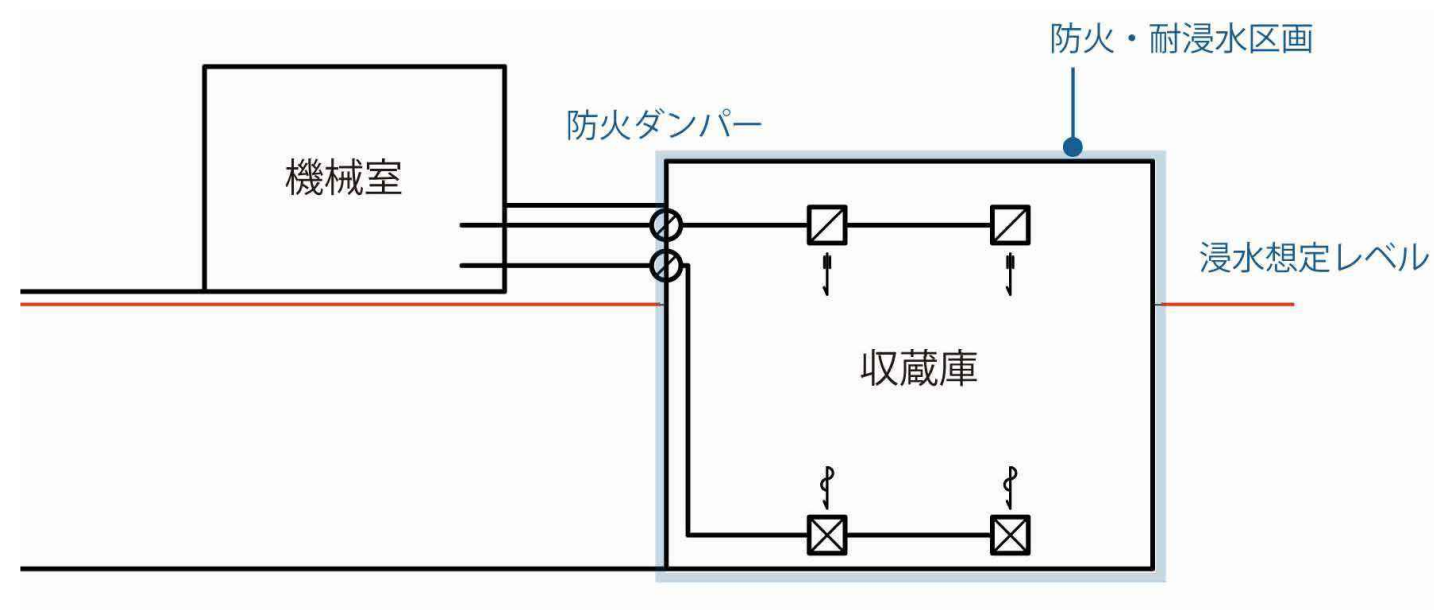
両系統においてはミキシングルームバイパスダクトを設定し、機器故障時においてもバックアップ運転を可能とする。

また、再熱除湿及び蒸気加湿器組込として湿度管理を十分に行うとともに室内温度との吹出空気温度差を小さく抑え結露等の防止を図る空調システムとする。

送風、排風ファンはインバーター組込制御により圧力変動を抑える。

収蔵庫内への空調空気吹出は、2層棚の設置も想定し、直接資料に風があたり、よどみのできないように配置する。

収蔵庫前室、一時保管庫は、その機能から別系統にて単独エアコンを設置とする。



3. 空調ダクト設備

ダクト形空調室内機に接続するダクトの敷設及び制気口・制気口ボックスを設置する。騒音に配慮し、適宜消音チャンバー、消音ダクトを計画する。制気口類は全て指定色塗装仕上げとする。

[風道]	(矩形・丸形ダクト)	一般ダクト：亜鉛鉄板、 グラスウールダクト 64K (ボックス類) 亜鉛鉄板、グラスウールダクト 64K
[保温]		グラスウール保温板又は保温帯25mm
[制気口]		ノズル型、ライン状吹出口他

4. 空調配管設備

各系統エアコンの屋外機と屋内機間の冷媒配管及びドレン管、加湿用給水配管を行う。ドレン排水系統は雑排水とは別に単独系統とし、屋外ドレン浸透柵に接続する。

[配管]	(冷媒管)	メーカー標準品又は、脱酸銅管(L形)
	(ドレン管)	屋内一般：空調ドレン用結露防止層付硬質塩化ビニル管(ACドレン管) 耐火二層管(VP、乾式目地タイプ) ピット内：硬質塩化ビニル管(VP)
[断熱防露]	(冷媒管)	メーカー標準品
	(ドレン管)	グラスウール保温筒20mm
[区画貫通]		認定工法により区画貫通処理を行う。

5. 換気設備

- 感染症対策として必要法定換気量よりも大きく換気量を見込み、必要に応じて換気量が調整可能なシステムを構築する。
- 外気負荷の低減を図るため居室、収蔵庫系統は全熱交換型換気扇を設置し、24時間換気に対処させる。
その他トイレ等の一般換気が必要な場所には排気ファンのみによる第三種換気設備を設置し、必要箇所への機器の設置及び換気ダクトの敷設を行う。
- トラックヤードに、排気ガス排出用設備を設置する。
- 展示室、収蔵庫系統においては除塵、雑ガス除去が可能なようプレフィルター、中性能フィルター、ケミカルフィルターを設置する。
- 展示室換気はCO₂制御、収蔵庫は電源管理スイッチ連動により、省エネを図る。

[風道材料]	(矩形ダクト)	亜鉛鉄板
	(丸形ダクト)	スパイラルダクト
[断熱]	(空調換気扇1次側ダクト)	グラスウール保温帯25mm
	(その他排気ダクト)	外壁より1m部分 グラスウール保温帯25mm

6. 自動制御設備

諸設備機器の制御、監視を行うことを目的とし、設備機器を自動制御することで、省力化、省エネ化を図る。空調機器類についてはエアコン集中管理制御装置により管理を行い以下の機能を設定する。

また、収蔵庫においては個別に制御を見込み温湿度アラームのリモート送信など収蔵品保護に関する制御も行う。

- 各室の運転状態管理、温度設定、異常表示
- 年間スケジュール運転制御
- 電力消費量の計測並びに記録
- 設置場所は学芸員室とする